

研究主題

「学び伸びる東金子の子 育成」

～一人一人に確かな「生きる力」を～



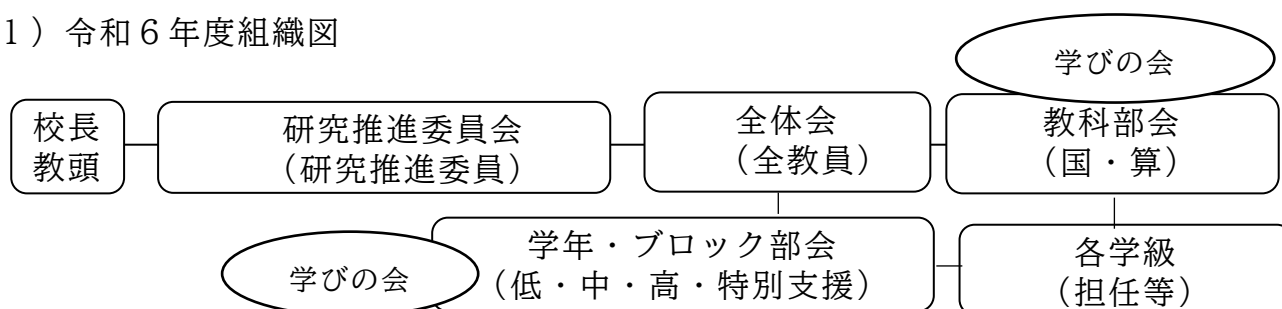
1 研究主題と設定の理由

本校の児童は、大変素直であいさつもよくできる子が多い。学習規律も比較的よく、落ち着いている。その一方で、様々な理由（発達障害傾向の特性、家庭の諸事情、外国籍等）から、学びに向かう意欲が低く、諸学力・学習状況調査の結果を見ても、国・県平均より数ポイント低い状況で推移してきた。特に、家庭学習に至っては、低い状況が顕著であった。また、自己肯定感が低く、将来に夢や希望、目標を持ってない児童や、不登校傾向にある児童が多いのも特徴であった。

そこで、一人一人が学ぶことの楽しさを味わい、自分の成長を喜び、友達と認める児童を育てるため、本研究主題を設定し研究を進めることとした。具体的には、入間市の「学びのスタンダード」をもとにした授業改善（算数・国語）で、「子供たちにとって『今日が楽しく、明日が待たれる学校』」を教職員が一丸となって目指すこととした。

2 研究の推進体制

（1）令和6年度組織図



（2）分掌

○校長：全体指導

○教頭：全体指導補助（学び合い担当）

○研究推進委員会：研究推進委員長（主幹教諭） 研究推進委員（各学年1名）

・研究の方向性、内容、方策などを検討する。

・研究推進に関して共通理解を図る。

・意識調査や諸学力調査の分析、検証を行う。

○全体会：研究推進委員長を中心に、全教員の共通理解を図る。また、授業研究会を通して全体で学び合う。

- 「学びの会」：授業づくりや省察を行う、教員の定期的及び自主的な学び合い。
 - ① 教科部会：算数部や国語部を中心とした授業づくりを行う。
 - ② 学年・ブロック部会：各学年の授業づくりを行う。ジャンプの課題等を検討する。
- 各学級：授業実践を通して、常日頃から省察を行う。

3 研究の内容と方法

授業研究会はもとより、毎日の学び合いの授業実践を通して授業力向上を図り、延いては、児童の学びに関する意識調査、及び諸学力・学習状況調査の結果から、取組への検証を行う。

(1) 授業の実践と省察

入間市「学びのスタンダード6」に迫る授業実践を通して、省察を行う。

・全学級授業公開

教科は問わず、学び合いの授業を公開する。

授業研究会、小中連絡会、学校運営協議会で実施し、外部指導者や校内外の教職員が参観する。(指導案不要)

・提案授業

テーマに沿った学び合いの授業を、提案者が展開する。外部指導者や校内外の教職員が参観する。(要指導案) 参観後、研究協議会を実施する。

・管理職による教室訪問

校内の全教職員が学び合いの授業を実践する。

教科は不問で、校長、教頭が参観し、その後研究協議を行う。(指導案不要)

・初任者示範授業

初任者研修の一環として、校内の教科等の主任が学び合いの授業を初任者へ公開する。(指導案不要)

・年次研修研究授業

年次研修受講者が、選択した教科について学び合いの授業を実践する。

校長、教頭、校内指導教員、拠点校指導教員が参観し、その後研究協議を行う。(要指導案)

(2) 児童への意識調査

学び合いに関する児童の意識の変容、家庭学習の取組状況を把握し、その結果分析から、研究における成果と課題を明確にする。

(3) 全国及び埼玉県学力・学習状況調査

夏季研修で行う結果分析から、全教職員で考察を行い、研究における成果と課題を明確にする。

・全国学力・学習状況調査：学力及び質問調査における平均値を比較する。

・埼玉県学力・学習状況調査：上記と同様の他、学力の伸びの経験経過を追う。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・これまで学習に意欲的に参加できていなかった児童が、ジャンプの課題に興味を示し、学習に取り組む様子が見られた。
- ・友達との関わりの中で、授業中に笑顔がたくさん見られ、ちょっとしたさりげない温かい言葉（ありがとう等）が教室から聞こえるようになった。
- ・長期欠席児童や教室に入れない児童については、様々な要因があるため一概には言えないが、令和5年度に比して大幅にその人数分減少した。
- ・日課表を全面改訂し、年間行事予定も修正を図った結果、授業づくりや、実践後の省察（リフレクション）を行う時間を、昨年度より確保することができた。
- ・「学び合い」の授業づくりを目標として、教職員どうしで互いに学び合う同僚性が、昨年度より増して構築できてきた。「学びの会」と称した校内課題研究の時間も、計画どおりに進めることができた。
- ・「学び合い」の第一人者である佐藤学先生を始め、佐藤学先生に学んだ学びの共同体スーパーバイザーを招聘し、授業のあり方について教職員皆で研究することができた。



(2) 課題

- ・「広がり」：令和6年度の学び合いは、「算数」を中心に「国語」との2教科であったが、次年度からは教科の幅を広げ、学び合いが常態化するよう研究を進める。
- ・「深まり」：深まらずに発表形式になってしまう授業、ジャンプの課題でも学びが途切れてしまう児童が見られたので、「聴く」「つなぐ」「もどす」の技法をさらに追究する。
- ・「学ぶ力」：令和6年度の「学び合い」への取組が、今後結果として学力にどう表れてくるのか、また、将来の夢や希望の有無や家庭学習の定着も含めて分析と考察、解決のための方策を研究していく必要がある。



5 まとめ 【「学び合い」を進めるために】

本校で「学び合い」を進めるにあたり、佐藤学先生の著書や授業研究会での指導・助言を参考に、以下のような指針に則って研究を進めた。

- 1 学力の向上を目標としない。

※目標にすべきは一人一人の学びの保障であり、学力の向上は結果である。

- 2 机配置はペアを基調としたコの字型、もしくはグループ型にする。

※男女混合の異質ペア、4人を原則としたグループを編成する。



- 3 授業づくり（デザイン）と省察（リフレクション）を大事にする。

※指導案作成のみに時間をかけ過ぎない。

- 4 ジャンプの課題は、半分から3分の1程度の児童がわかる高度な問題を設定する。

※残りの児童に、どう教材と友達をつなげて学びを継続させていくかが大事である。
※ジャンプの課題の設定＝学び合いではない。
人と人の温かくてさりげない関わりが学び合いを生む。



- 5 教師はファシリテータに徹する。

※「聴く」「つなぐ」「もどす」の技法を徹底し、「他に」など教師が学びを断ち切らない。



- 6 教職員自身が互いに教室を開き、学び合う（同僚性）。

※本校は課題研究を「学びの会」と称し、授業研究会は提案授業（焦点授業）だけでなく、全学級公開授業を行う。



- 7 研究協議は児童の学びの様相を微細に捉え、見出した事象について考察をする。

※参会者も指導者になる協議はしない。（教師の発問や指導法の是非を問う等）

主体的に学び、表現する児童の育成

～子どもたちが学びあう国語科の授業の工夫～



1 主題設定の理由

本校では、学校経営理念「かかわることで人は育つ」のもと、対話を大切にしたい授業を推進している。主題設定にあたって、本校児童の課題として、学力調査の結果等から国語科(特に読むこと)に課題がある児童が多いことが挙げられた。そこで、国語科の研究を通じて授業改善を図り、児童の国語力を高め、学びあうことができる児童を育成していくため、本主題を設定した。

2 研究仮説

国語科の授業で、学習活動を工夫すると、主体的に学び、表現する児童が育つだろう。

3 研究の内容

柱1 児童が主体的に学習するための手立て

① 児童の実態や教材の特性から指導事項を達成するための言語活動の工夫

アンケート調査やこれまでの学習状況をもとに児童の実態を把握し、教師が教材を読み込むことにより、その特性を捉えた。それをもとに、指導事項を達成するためには、どのような言語活動が適切か考え設定した。



② 国語 文学的な文章 言語活動一覧表の作成、活用 (光村図書)

言語活動の系統性を図り、段階的な指導に役立てるため、教科書の言語活動を一覧表にしてまとめた。低学年は今後の中学年、高学年の言語活動を意識した学習につなげ、高学年はこれまでの言語活動の経験を生かす(児童自ら選択する)ような学習になるように教師の意識を高めた。

令和6年度～ 光村図書 国語 文学的な文章 言語活動一覧表

学年	教材名	単元名	言語活動
1	はなのみち		・物語を読んだ感想を伝え合おう
1	おおきなかぶ		・役を決めたり、動きをつけたりしながら音読発表をしよう
1	やくそく	おはなしをたのしもう	・「思ったこと」「素敵な言葉」を考えて書こう ・あおむしや木になったつもりで、声に出して読もう (ペープサート)
1	くじらぐも	おもいうかべながらよもう	・「いいな」「すぎだな」と思ったところを伝え合おう ・登場人物のようすを思い浮かべながら工夫して音読しよう
1	たぬきの乗車	すぎなところを見つけよう	・一番心に残ったことを理由も込めて友達と話そう 【感想の観点】 「いいな」「すぎだな」「なるほど」

③ 学習活動の工夫

課題意識を持たせる 1 単元の導入の工夫 指導事項に合わせて、児童にとって楽しい言語活動を設定する。 2 学習計画の立て方の工夫 児童とともに単元のめあてを達成するための学習計画を立てる。 3 毎時間の導入の工夫 単元のめあてを達成するために、この1時間は何をするのか明確にする。	適切な学びあいの場の設定をする 学びあいを通して「納得解」(自分が納得でき、他人を納得させられる)を導き出すことを目的にした。 課題や発達段階に応じて自分の考えを広げたり、深めたりすることができるように「目指す学びあいの姿」を設定し、様々な学びあいの形式を試行錯誤した。	ふりかえりの質を向上させる ふりかえりの質を向上させるために意義を伝え、視点を明確にした。 【ふりかえりの視点】 ①これまでの学びの自覚 (～がわかった。) (～できるようになった。) (～をがんばった。) ②これからの学びの見通し (～のときは、どうなのかな。) (次は～してみたい。) ③活用と探求 (次は～したい。) (もし～だったらどうかな。)
---	---	---

④ 単元のめあて 毎時間掲示

児童が目的意識をもって学習に取り組めるよう、「単元のめあて」を黒板に毎時間掲示した。授業では、「単元のめあて」を指導者、学習者共に意識し、毎時間の学習に取り入れていった。



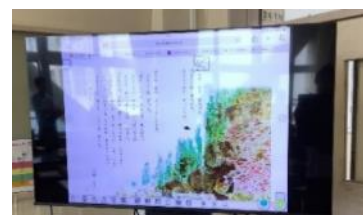
7 指導と評価の計画(全〇〇時間 本時 〇/〇)

次	時	主な学習活動	学習内容	○指導上の留意点・【評価】
	1			○~~~~~する。 ~~~~~させる。 【思考・判断・表現①】(ノート) ・登場人物の性格を捉える叙述を見つけ、自分の考えを整理して書いているか確認する。
	2			子どものゴール
	3			

指導案に「子どものゴール」を明記

⑤ デジタル教科書の活用

これまで、黒板に掲示していた拡大文章を、テレビで映し出し、線を引いたり、音声を聞かせたりしてユニバーサルデザイン化を進めた。また、教員の授業準備の負担も大きく削減された。



柱2 児童が自分の考えを形成し、表現するための手立て

① 金子の目指す学びあいの姿や系統性の設定、学びあい活動の検討

《金子が目指す学びあい》

「友達の意見を聞いてみたい!」「これをみんなで話し合いたい!」と、自分の学びで満足せず、に他者と協働的に学ぼうとする姿勢・態度。

意味のある学びあいとなるように、まず自分で考える時間を確保した。低中学年で、視点を与え、高学年では自分で考えて、話したいことを明確にして共有と交流ができるようにした。共有・交流をした後に個に戻し、考えの再構築をする時間を設定した。

低学年	中学年	高学年
・教師が提示した視点の中から選んで質問することができる。 ・聞かれたことに答えることができる。 ・自分の考えを話すことができる。	・視点が与えられなくても、質問することができる。 ・原稿を用意せずに質問に答えたり話したりすることができる。 ・一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。	・自分の知りたいことに合わせた質問をすることができる。 ・友達に聞いたことや、話し合ったことから自分の考えを広げたり、まとめたりすることができる。

② 児童の実態や意図に合わせた多様な表現方法の検討

音声言語		
 音読	 話し合い	 朗読
文字言語		
 書いて見せる	 考えをまとめる	 ICTを活用して共有

③ 短時間で行える帯活動の設定（言語活動に必要な技能の向上）

 3文スピーチ	 言葉集め
 ちよっトーク	 感情読み

<授業研究の視点>

金子小 授業研究の視点

- ① 魅力的な学習活動
- ② 必要感のある学習活動
- ③ 個で考える活動（時間）

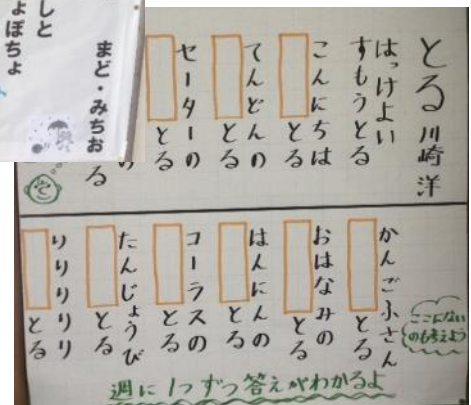
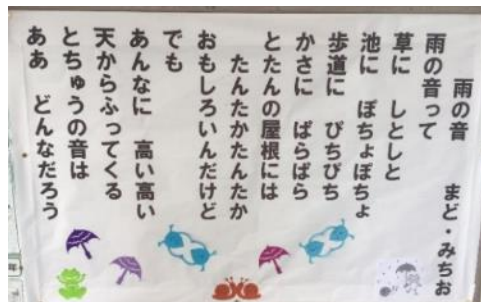


毎回の国語科授業において、
全教員が4つの視点が確保
されている授業を目指して
実践し、振り返ることによって授業
改善を目指した。

柱3 学習に役立つ環境づくり

① 国語コーナーの充実

詩に親しみ、表現力を高めるために、校内の3か所に詩を掲示した。学期に1回更新をして、季節に合った詩にふれる機会をつくった。また、学年掲示板を活用し、詩以外でも国語に関する掲示物を更新していった。



② 読書コーナーの設置

児童が本を手取る機会をつくるために教師のおすすめの本のコーナーを設けた。ひと月に2冊更新してより多くの本に触れる機会をつくった。



③ 関連図書の設置

国語科の教科書には関連書籍が取り上げられている。地域の図書館（金子分館）と連携し、並行読書として関連のある本を借りている。また、PTA 活動の総務部と連携し、ベルマーク回収のポイントで本を購入し、全学年で活用した。



④ 読み聞かせボランティア&先生たちによる読み聞かせ

全学年で週1もしくは月に1回、朝の時間に読み聞かせボランティアの方々に本の読み聞かせを行った。季節の本や学年の実態に応じて本が紹介され、児童が本に親しむ温かな時間となっている。また、令和6年度から教師による読み聞かせも行い、多くの児童が昼休みの読み聞かせを楽しみにしている。



柱4 けやき学級の取り組み

① 国語の授業

けやき学級の国語

語彙を増やし、表現できるようにする
 きれいな言葉を知る
 友達や先生と話し、人とかかわる楽しさを味わう
目標は子供の実態に合わせて設定する

ことわざクイズ

1段階 ことわざが言える
 2段階 ことわざの意味がわかる
 3段階 ことわざを使える
 クイズ形式にすることで会話をしながら
 意味がわかり、使うことができる



音読

言葉を使ったゲーム

読み聞かせ

② 環境を整える



注目すべき場所がわかる

穏やかに、集中できる環境設定

- みんなで集まるときには、ベンチを使うときもある
椅子や机を移動するストレスがない
注目すべき人やものをわかりやすくする
- 自分の課題の時には集中できる椅子に座ったり、
パーテーションで区切ったりする
- ワークシステムを確立する

自分と向き合う



感覚を刺激し、集中できるように



人とかかわることの楽しさや良さを味わい、人間関係を広げられるように

柱5 茶いむ教室の取り組み

茶いむ教室の自立活動

- 1段階 信頼関係を築き、人間関係を良好にする
- 2段階 会話のキャッチボールのスキルを身につける
- 3段階 生活の場(在籍学級)で使えるようにする

他者の気持ちを理解するには、自分の感情の言語化する必要がある
教材を工夫し、楽しみながら自己理解を進め、
自分の思いや考えを言語表出できるようにする

4 成果と課題

- 2年間で10回の研究授業と、5名の指導者の方からのご指導をいただいた。計画的に部会を開いたり、全体会を開いたりする中で、研究が深まり、実践につなげることができた。
- 学校全体で共通理解を図り、系統性を意識して学校全体で取り組むことができた。
- ICTの有効な活用を図る。「オクリンクプラス」やデジタル教科書の積極的な活用を行う。
- 読書量の底上げが十分に果たせなかった。朝の時間や休み時間では、外遊びの推奨とあわせて、雨天時等の読書活動にも力を入れていく必要もある。家庭への情報提供を継続して行い、家庭を巻き込んで豊かな読書時間を創出していく。



進んで学び合う児童の育成

～算数科を中心に、学ぶ楽しさを実感させる授業実践～

1 主題設定の理由

令和4年度までは、「わかる」授業を目指し、児童が進んで学ぶ手立てを考え、実践をしてきた。その結果、学ぶ楽しさを感じている児童の増加や埼玉県学力学習状況調査による学力が伸びた児童の割合が多くなったという成果を出すことができた。

昨年度からは、さらに児童の主体性を伸ばし、学ぶ楽しさをより感じられるよう授業改革に取り組むこととした。そこで、全担任が授業を行う算数科の指導を中心に「学び合い」を授業に取り入れ、授業研究を軸として全校一斉に「学び合い」に取り組みながら研究を進めていった。

2 学校教育目標と「学力」の定義

学校教育目標

進んで学ぶ子 心の豊かな子 明るく元気な子

狭山小の「学力」の定義

「自分で学び、自分で考える力」

3 研究の仮説と手立て

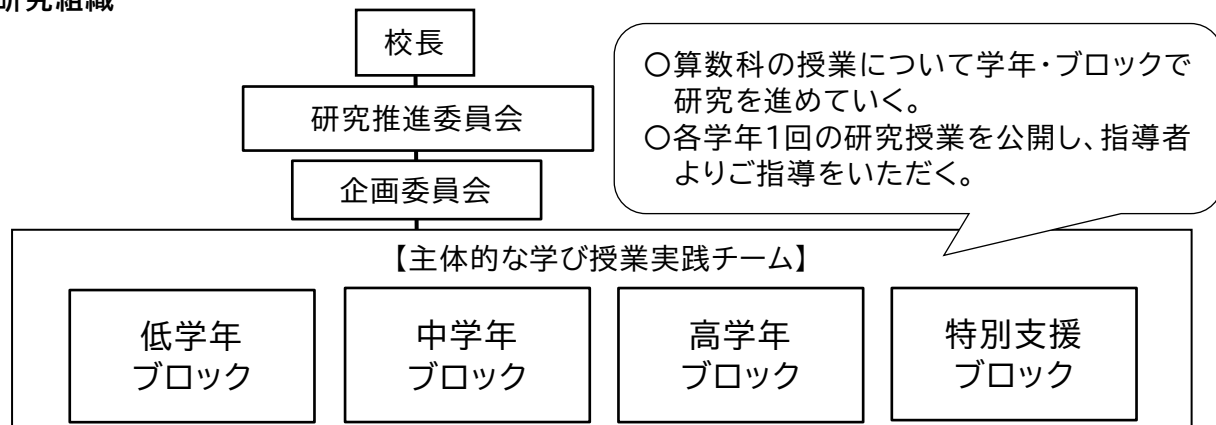
① 研究仮説

「探究と協同の学び」を展開し、一人残らず児童の学びを保障すれば、学ぶ楽しさを実感し、児童が進んで学び合うだろう。

② 主な手立て

- ペアや3～4人での「学び合い」グループを作成し、互いに聴き合いながら課題解決に向かい、一人残らず児童が学びに向かえるようにする。
- わからない点や困った点を児童から聴いて共有し、児童同士をつなぎ、課題解決への糸口となるようにする。
- 共有の課題を使い、全員が意欲的に取り組めるようなジャンプの課題を設定する。
若しくは、誰しもが最初からは解けないような問題(ジャンプの課題)を設定し、全員にとって探求の学びとなるようにする。
- 3年生からは、2クラスを習熟度別に3クラスに分けて授業を行う。

4 研究組織



5 主な取り組み

- ① 本を購入 著書：『新版 学校を改革する』佐藤 学先生
・全職員が購入、熟読し、何のために学び合いを実践するのかを共有



② 講演会の拝聴（武蔵中学校区三校合同研修会）

- ・武蔵中学校区3校の教員全員で講演及び授業動画を拝見し、学び合い学習とは何か、どのように行えばいいかを学んだ。



講演：「探究と協同の学びの創造」
学びの共同体研究会 スーパーバイザー
谷井 茂久 先生

③ 先進校視聴・視察 校内共有

- ・飯能市の小学校の授業動画の視聴及び現地視察を行い、校内で共有することで、学び合いについての理解を深めた。

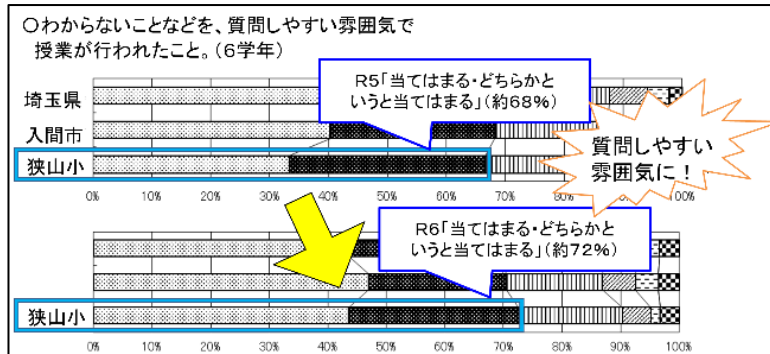
動画：飯能市立双柳小学校
第2学年「どちらがおおい」 第5学年「面積の求め方を考えよう」

視察：飯能市立加治東小学校（現地視察）
第4学年「四角形の特ちょうをしらべよう」



④ 全学年コの字型の机配置、ペアやグループでの学習の導入

- ・1、2年生：ペア学習 ・3～6年：3～4人のグループ学習



⑤ 教師及び児童の声のトーンダウン

- ・教師は学びを促し、考えを繋げる役割へ（ファシリテーター）



⑥ 共有の課題 → ジャンプ課題へ

- ・1～2年生…ペアで問題に挑戦。（意欲を引き出すレベルの課題）
・3～6年生…誰しものが探求の学びとなるような問題に挑戦。（数名程度が解けるレベルの課題）



6 研究授業・研究協議会

指導者を奨励し、研究授業を行った。そのあと研究協議会を開き、
その中で指導者から指導講評をいただいた。

<令和5年度>



6月28日	全体授業研究会	2年1組 斉藤 早紀 教諭 「100より大きい数をしらべよう」 指導者 入間市立扇小学校 校長 村越 新 先生
9月 6日	全体授業研究会	5年1組 田中 直人 教諭 「図形の角を調べよう」 西部教育事務所 指導主事 関 斉史 先生
9月19日	ブロック授業研究会	3年1組 又村 枝彫 教諭 「まるい形を調べよう」 指導者 入間市立藤沢東小学校 校長 吉野 正美 先生 入間市教育委員会 指導主事 金 佐和子 先生
11月 6日	ブロック授業研究会	1年2組 小林 拓弥 教諭 「ひきざん」 指導者 入間市立藤沢東小学校 校長 吉野 正美 先生
12月11日	ブロック授業研究会	6年2組 岡本 拓也 教諭 「順序良く整理して調べよう」 指導者 入間市立藤沢東小学校 校長 吉野 正美 先生 入間市教育委員会 指導主事 金 佐和子 先生
1月31日	全体授業研究会	4年1組 長部 幸枝 教諭 江口 佳奈英 教諭 「広さの表し方を考えよう」 指導者 入間市立扇小学校 校長 村越 新 先生 入間市教育委員会 指導主事 金 佐和子 先生

<令和6年度>

6月20日	ブロック授業研究会	1年1組 佐藤 容子 教諭 「ひきざん」 指導者 入間市立藤沢東小学校 校長 吉野 正美 先生 入間市教育委員会 指導主事 金 佐和子 先生
7月 1日	ブロック授業研究会	6学年 仲川 大喜 教諭 又村 枝彫 教諭 少人数指導 江口 佳奈英 教諭 「割合の表し方を考えよう」 指導者 入間市立藤沢東小学校 校長 吉野 正美 先生 入間市教育委員会 指導主事 金 佐和子 先生
11月 8日	入間市教育研究会 研究発表会	2年1組 守谷 早織 教諭 「九九をつくろう」 指導者 入間市教育委員会 指導主事 金 佐和子 先生 5学年 大石 杏美 教諭 岡本 拓也 教諭 少人数指導 江口 佳奈英 教諭 「比べ方を考えよう」 指導者 入間市立藤沢東小学校 校長 吉野 正美 先生
2月 4日	ブロック授業研究会	3学年 寺西 雅子 教諭 識名 巴瑠美 教諭 少人数指導 江口 佳奈英 教諭 「三角形を調べよう」 指導者 入間市立藤沢東小学校 校長 吉野 正美 先生

7 成果と課題

【成果】

☆学びに向かう姿勢(意欲)に変化が見られた！

全国学力学習状況調査の児童質問紙で、下記の結果から、本校の6年生が全国や県に比べてわからないときに諦めずにいろいろな方法を考えようとしていることがわかった。また、校内で作成したアンケートの結果からは、学び合いによって「進んで学ぶ」ことや「楽しく学ぶ」ことができるようになっていっていることがわかる。

児童が進んで学び、諦めずに課題と向き合うようになってきたのは、研究を進めてきた大きな成果である。授業を進めてきた教員からも、『落ち着いた雰囲気で学習するようになった』『わからないときに友達に「教えて」と声をかけるようになった』など、授業を通して感じられる成果も出ている。今後もよりよい『学び合い』の進め方を研究していく。

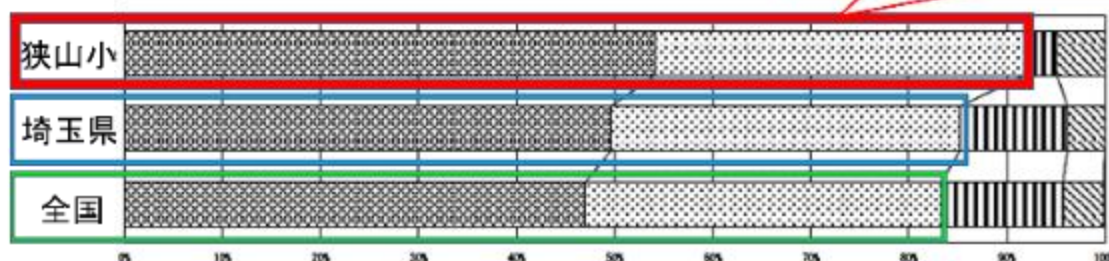
【課題】

- ▲解決の糸口をつなげるためのヒントの出し方。
- ▲共有の仕方や内容の選択が困難。
- ▲ジャンプの課題設定。

全国学力・学習状況調査 児童質問紙結果より

○算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。

当てはまる・どちらかという当てはまる(約92%)

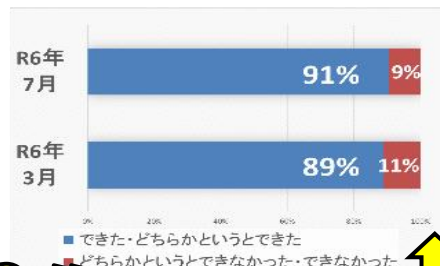


狭山小学校 校内研修 児童アンケート結果より

①ペアやグループでの学び合い学習をすることで、自分から**進んで学ぶ**ことができましたか。



②ペアやグループでの学び合い学習をすることで、**楽しく学ぶ**ことができましたか。



↑UP !!

↑UP !!

1 研究主題

楽しい授業の展開

～教師の主体的な学びが子の最適な学びを作る～

2 研究の概要

本校では、令和 5、6 年度、入間市教育委員会、入間市教育研究会の委嘱を受け、算数科の研究を行ってきた。この 2 年間に渡る研究で、初年度となる令和 5 年度は教師側の学びで授業力を高め、発表年度である令和 6 年度は今までに高めた授業力を集約し、授業実践を通して最適な学びを児童に提供する計画で行われた。

3 具体的な取り組み

研究の先駆けとなった令和 5 年度では、

- ① 課題設定力
- ② 授業構力
- ③ 板書構力
- ④ 発問力
- ⑤ 対応力

の 5 つの力を全教職員が分担し、それぞれの力を高めるための自身の課題を設定し、実践を行ってきた。そして教師の主体的な学びの中で、『よい授業とは、学習活動の多い授業』であると捉え、次年度に引き継いだ。また、本校の定める学習活動とは、

(ア)考えを書く時間(ただし、視写をする時間は含まない)

(イ)4 人までのグループで学びあう時間(グループは最大 4 人まで)

(ウ)話し合う時間(机は向き合った形で発表者に注意が向けられている、発言の内容を教師が全体に共有し、オウム返しはしない。)

の 3 つである。

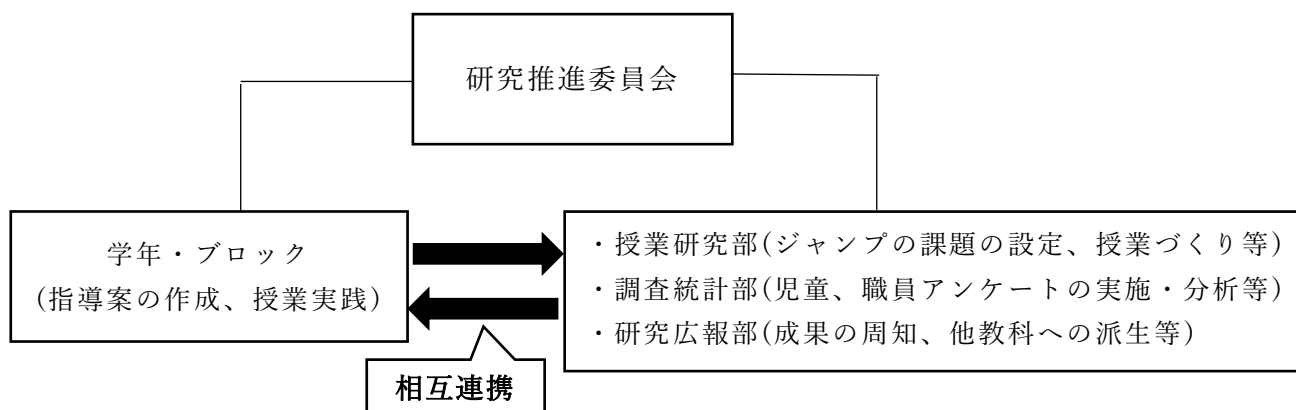
令和 6 年度は、子供の最適な学びの実現のため、令和 5 年度を礎として、

- ① アタック 2 5 (1 授業 4 5 分の中で、学習活動を 2 5 分以上確保する)
- ② さっと GPT(導入は短く、G：グループ P：ペア T：探求)
- ③ ジャンプの課題・振り返り(よりよい支援として、とにかく見届ける)

の 3 点を授業の中で実践し、研究を行った。

4 研究組織と各部会の取り組み

研究推進委員を中心として、各学年ブロックの他、以下の3部会を編成し、分担して研究、調査等を行った。



5 ジャンプの課題について

本校のジャンプ課題は、3つのレベルに分類され、各学年、学級(習熟度別で編成)の実態に応じて実施している。すべて黙々と一人でやるのではなく、わからない課題は、資料やタブレットで調べたり、友達に聞いて、学び合ったりするなど、『自分で支援を考える』ことも自力解決の時間ととらえ、実践している。

【レベル1】・・・教科書にない問題

(例題)

- ・あなたの50m走の、速さはどれくらいですか。時速や分速で表してみよう。
- ・1日が日曜日の月の30日が月曜日になることを、÷7の計算をして説明しよう。

【レベル2】・・・答えが一つに決まらない問題

(例題)

- ・生活の中から、正五角形、正六角形のものを見つけてみよう。
- ・自分の部屋(家)の50分の1の図を書きましょう。

【レベル3】・・・探求が続く問題

(例題)

- ・「合同」でないと、困る物と言ったら何ですか。
- ・あなたの登校と下校で歩く速さはどれだけ違うか？
- ・□に1～9までの数字を一回ずつ入れて、式を成立させましょう

$$\square\square\square\square:\square\square\square\square\square=1:3$$

また、他教科でもジャンプの課題を設定することができる。(例：社会)

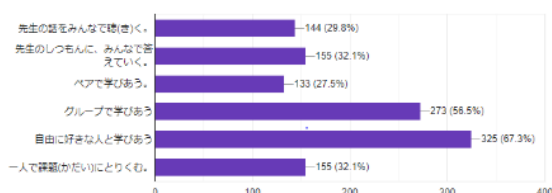
- ・住宅が多いところ、畑が多いところ、工場が多いところ、どれに住みたいです。(3年)
- ・富士山に登りたい。車で行くとすると、何県を通り、どんな道路を使いますか。(4年)
- ・「気候」「降水量」を根拠に、住みたい場所を考えよう。(5年)
- ・市議会議員に立候補します。「子供たちのために・・・をします」公約を考えよう。(6年)

6 子供や教職員の意識の変化

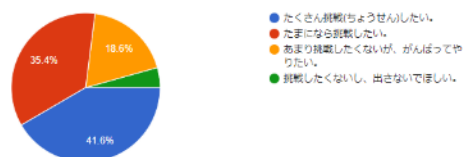
多くの授業実践を通じ、児童たちの授業、特に算数に関わる考え方の変容があった。特に学校での学び方については、一斉指導で教師の話や説明を聞いたり、一人で黙々と問題を解いたりする、いわゆる従来の授業スタイルよりも、グループや人との関わりを通じて学び合う方が好きという児童が多い。また、ジャンプの課題についても、8割以上の児童が、意欲的に取り組んでいるという結果が出た。

【児童対象のアンケート】

1 学校では、どんな学び方が好きですか。
(いくつ選んでも いいです。)



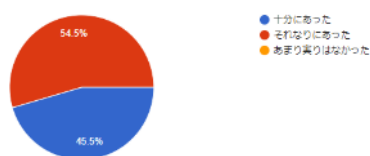
2 ジャンプの課題(かだい)について、あてはまるものをえらんでください。
(一つだけえらびましょう)



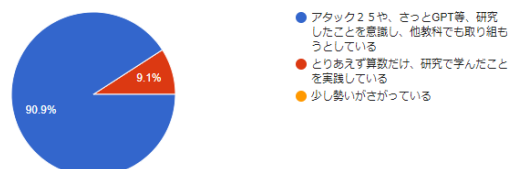
教職員も今回の研究を通じて、自分自身の学びに大きく寄与できたと回答していて、算数以外の教科でも、『アタック25』、『さっと GPT』、『振り返り』を意識して授業を行っているという割合が9割以上となった。

【教職員(主に学級担任)対象のアンケート】

今年度の学校研究は、自身の日々の授業において実りあるものでしたか。



発表が終わったあとの授業について



7 成果と課題

(1) 成果

『さっと GPT』を意識することで、教師の説明が減り、児童が進んで課題に向かって考える時間が増えた。また、振り返りの視点も学校で統一し、書く時間を多く確保したことで、自分で学習を振り返ることができる児童が増え、次時の授業へつなげることができた。

(2) 課題

本時のめあて、単元のめあて、児童の実態に適したジャンプの課題を設定することが難しく、また、ジャンプの課題の時間配分に苦慮することがあった。

8 その他

11月8日(金)の研究発表では、教育講演会として哲学者の永井玲様を講師として公演をいただいた。永井氏は『水中の哲学者たち』(晶文社)、『世界の適切な保存』(講談社)等の著書を執筆されていて、『普段当たり前だと思っている、答えも正解もない問い』に対し、複数人で話し合う『哲学対話』に精通されている。本校の研究においても、人の言うことに対して決して否定しない、何を話してもよいという学び合いのスタイルは、永井氏の哲学対話のルールに通じるものがあり、今回の公演で、貴重なお話をいただくことができた。

永井氏の公演



教職員どうしの『哲学対話』の様子



【哲学対話】とは・・・

人々と考え合う場のこと

3つのルールがある

- ・よく聞くこと
- ・自分の言葉で話すこと
- ・“結局ひとそれぞれ” にしないこと

研究主題

「考え、議論する道德の授業づくり」

～生徒一人ひとりが自分自身の問題と捉え、向き合う授業を通して～

入間市立黒須中学校

1 主題設定の理由

本校では平成29年度から、学びの共同体 スーパーバイザーを招聘した『学び合い学習』を学校課題研修として取り組んできた。その成果として、『学び合い学習』がねらいとする、「ペアやグループの活動を通じた『聴（き）き合い』でより深く学習内容を理解する」ことが日常的にできるようになった。また取組を通じ、学校教育目標『自立と絆』の具現化にも、わずかずつではあるが、近づくという成果もあげた。

そこで、『学び合い学習』で得た成果に、「ツールを取り入れた道德授業」を加えることで、より深く事象を見つめ、より高い道德的実践力を発揮できる生徒を育成することができるのではないか、と考え、この主題を設定した。

2 研究仮説

- 『学び合い学習』の型を取り入れた授業を行うことで、「考え、議論する道德」の授業づくりが充実するのではないかな。
- 「ツール」を取り入れた授業を行うことで、「考え、議論する道德」の授業づくりが充実するのではないかな。

3 おもな研究内容とその取組

(1) ※ツールを活用した

日々の授業実践

これまでの学び合い学習で得た成果を土台とし、以下の点を踏まえ、日々の道德授業実践に努めた。

- ・学年内のローテーションによる、組織的な教材研究
- ・学習時の座席配置は男女市松模様の4人グループやコの字型
- ・1時間当たりの発問数は1～3程度

※ツールとは、心情メーターや、心情円、クラゲチャートなど視覚的に心の状態を共有できるように活用されるものや、二分法、ロールプレイ、Y字グラフなど思考を支援することに有効な展開方法のことである。

① ツールを活用した日々の授業実践

視覚的支援

心情メーター

心情円

クラゲチャート

テキストマイニング

思考の支援

二分法

ジグソー法

ロールプレイ

Y字グラフ

学び合い

(2) 学期に1度の研究授業

現東金子小学校主幹教諭、村野由佳先生を招聘しご指導を受けながら、定期的に道德授業の研究会を行った。

① 令和5年5月29日

内容項目：礼儀 教材：「言葉おしめ」 授業者：小林あいり 教諭
ツール：学び合い、切り返し



② 令和5年9月12日

内容項目：自然愛護
教材：「冬の使者マガン」
授業者：高柳吾良樹 教諭
ツール：学び合い、映像提示、座標軸



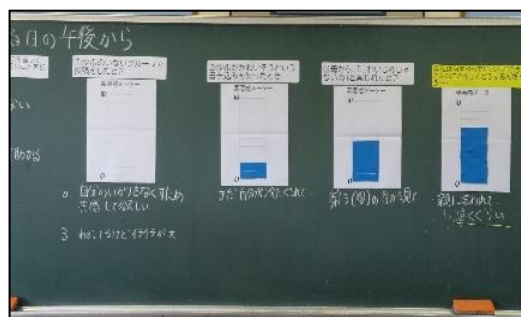
③ 令和6年1月30日

内容項目：遵法精神・公德心 教材：「二通の手紙」 授業者：黒坂杏奈 教諭
ツール：学び合い、二分法



④ 令和6年5月27日

内容項目：自主、自立、自由と責任 教材：「ある日の午後から」 授業者：高柳吾良樹 教諭
ツール：学び合い、罪悪感メーター



（３）定期的な教材研究会の実施

研究推進委員の教師を中心に、毎回6名前後の教師が参加し、一つの教材について協働して研究を行った。研究会では、教材研究を深めるとともに、参加した教師それぞれの、道徳教育、道徳の授業への考え思いを提示してもらい、それについて議論することを目的とした。議論を重ねる中で、自分一人では思いつかなかったような発問や展開を毎回発見でき、自身があらためて同じ教材を扱う際の指導のヒントにすることができた。



(4) 全学級『道徳の木』を作成

環境整備部の教師が中心となり、各教室に「道徳の木』を作成し、生徒が1時間の授業において考えたことや感じたことを掲示し、生徒が他の生徒の考えに触れ実践力向上につながるようにしている。



(5) 道徳コーナーの設置

学級担任以外の教師に授業の参観を行ってもらうことで、生徒の振り返りをまとめたものを、生徒が利用する階段に掲示している。



(6) 道德通信の発行

道徳の授業後、教師向けに道徳通信を発行し1時間の授業について情報提供をした。また、生徒保護者向けの道徳通信については、他の生徒と多面的・多角的に、自分の考えと照らし合わせることをねらいとし発行し

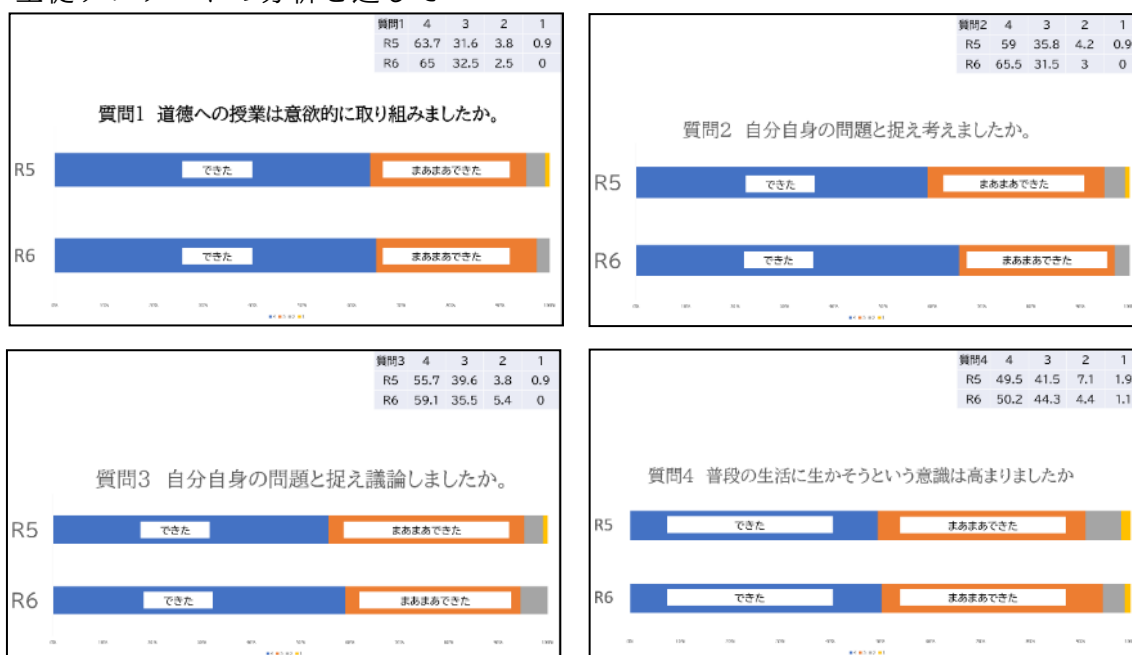
生徒保護者向け

た。担任の思いも伝え、望ましい学級経営の一助とし自らの考えの言える学級づくりを目指した。

[illegible][illegible]

4 取組の成果と今後の課題

(1) 生徒アンケートの分析を通して



《生徒コメント》

- ・自分なりの考えを深めたり、他人の意見も含めて考えることができた。
- ・班で考えることが多く、他の人の考えも知ることができるので新しい考えになった
- ・今の自分はどうか、そしてこれからどうすればいいのか、を順に考え班の人と意見交換をしました。このように意見が交換しやすい場はいいなと思います。
- ・考えさせられる題材が多かったです。自分だったらどうするかを考えながら授業を受けることができました。

(2) まとめ

【研究の成果】

- 各学年でローテーションする授業を取り入れることで、共通の題材について研究し、教材研究をより深めることができた。授業後の意見交換を通じ、道徳の指導力向上につながった。
- 学期ごとの研究授業や定期的に行なった教材研究会を通して、教師同士で、様々な展開方法、ツールの活用、道徳の授業への思いを共有することができた。
- ツールを活用することで、意図的な発問をより意識して授業を組み立てられるようになった。
- 学び合いの型を取り入れた授業を行い、日頃の積み重ねを活かしたことで、生徒同士が活発に「聴（き）き合い」を行う場面が多くみられた。

【今後の課題】

- 道徳で考えたことを、日常生活に活かそうとしている様子には課題がみられた。今後とも、アンケートの内容を工夫しながら実態を把握し、実践力向上に結び付けていく。
- 生徒たちが考えるためのツールの活用を通して、活用のノウハウはかなり蓄積することができたが、議論をより深めるため、今後とも更なるツールや発問の吟味を重ねたい。



研究主題 未来に向かって「あい」と「チャレンジ」「リスペクト」
～算数科を通して豊かに考え ともに高まる 学びの実践～

1 主題設定の理由

情報化の進展や人口減少など社会の構造的な変化の中で、より多様化が進む子供たちを誰一人取り残すことなく、未来を切り拓き主体的に生きる力を育てていくことが学校教育の大きな使命である。そのためには、物事に主体的に取り組むとともに他者との関わりの中で課題を解決する能力の育成が重要になってくる。そのような力を子供たちに育てていくためには、学校において日々の授業の改善と集団力の育成が重要となる。

本校では、昨年度から、その具現化に向けて、「学び合い」学習の実践を中心に据え、児童が一人残らず主体的に学習に取り組み、協働的に学んでいく授業のあり方について研究を進めてきた。

そこで、算数科を通して学び合いの学習を進め、他者と豊かに関わりながら未来に向かう学力の向上を目指し、本主題を設定した。

2 研究仮説と手立て

(1) 研究仮説

①学び合いによる授業の充実を図ることで、主体的創造的に思考する力や、協働的に取り組む態度が高められ、未来に向かう学力の向上が図れるであろう。

②心理的安全性を育む集団を育成することで、学びの土台作りが図れるであろう。

(2) 研究仮説に迫る手立て

◎学び合いによる授業の充実を図り学力の向上を目指す。

①教材・指導法研究

○「学びの作法」の定着とそれに基づいた学び合いの実践

○単元を通したジャンプ課題の開発、実践

②授業研究

○1人1回以上実施（全体授業研究会、ブロック授業研究会、フリー参観）

③視察研修

一人1回以上の研究授業。「茨城学びの会 根本光子先生」よりご指導を受け授業力の向上を図ります。



◎学び合い学習を支える力としての心理的安全性を育む学級集団の育成を目指す。

○学級力アンケートを活用しての学級力の向上

- ・実施計画に基づいた実施
- ・実施後の活用法の検討

低・中・高学年別の学級力アンケート。2ヶ月に一度実施して学級の様子を確認し、目標を設定して取り組みます。



学びの作法・土台作り	
学習目標	ペアワーク・グループワークの推進
内容	①話し合いのルール・役割分担の明確化 ②話し合いのルール ③話し合いのルール ④話し合いのルール ⑤話し合いのルール ⑥話し合いのルール ⑦話し合いのルール ⑧話し合いのルール ⑨話し合いのルール ⑩話し合いのルール
心理的安全性	教師の声かけ つなぐ 学びの声を聴く ひとりぼっちにならない 発言が通じない 発言が通じない 発言が通じない 発言が通じない 発言が通じない 発言が通じない
学習環境	教室・学習環境 モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ
学習環境	教室・学習環境 モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ モビリティ

3 研究の実践内容

(1) 学び合いによる授業の充実

①「学びの作法」の定着

○年度当初の共通理解研修で共有し、共通実践して定着を図る。

②掲示等の活用

○「言葉」や「姿」の掲示による啓発

「共通理解を図った学びの作法。年度当初に全学級で定着を図ります。」

スケジュール	4月	5月	6月～
1年	学びの作法の推進		学びの作法の推進
2年			
3年			
4年			
5年			
6年			
わかば			

- 声のトーンを下げる。(落ち着いた語り口)
- 聞ける状態になるのを待つ。
- 言葉の量を減らす。

からね。組み立ての作業を重みかけ、積み重ねた土を研究して、築いて、授業の構成を立てる。



『楽しい授業の追求 学び合いを取り入れて 個別最適な学びを進める授業』

～算数科の指導を通して～

1 はじめに

本校では「校長先生の大切なウルトラ7(セブン)」にある「楽しい授業」を目標に研究を進めていくこととした。これまでも学び合いの授業を行ってきたが、研究主題を達成するために、「楽しい」の定義を職員全体で共通理解をした上で、児童が算数の授業で感じる楽しさを追求し、授業の質の向上を目指し研究を進めている。

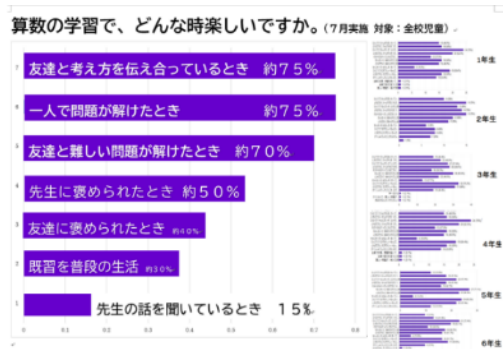
2 研究の概要

(1)研究題目の設定理由

- ①「楽しい授業」を展開していく中で、学び合いは、果たして、どのような形態、時間やバランスで取り入れていくことが学力向上に効果的であるのか、算数科の指導を通して研究していくこと。
- ②習熟度別の学習が学力向上に効果的であることもじゅうぶんに考えられる。本研究では、学び合いと習熟度別学習を取り入れ、「楽しい授業」を追求していきたい。

(2)研修計画 ※全学級公開：一人一授業

	内容	日時	詳細
第1回	研究推進委員会	4月4日(木)	・研究の方向性の確認
	入間地区学力調査実施	4月11日(木)	・2～6年生 算数科調査問題
第2回	学校課題研究会	4月15日(月)	・算数授業1時間の流れ
第3回	研究授業	5月21日(火)	・6-1研究授業 鈴木 教諭 ・研究協議/講演会「学び合いとは」 ・横瀬町立横瀬小学校長 浅沼 健一 先生
第4回	研究授業	6月24日(月)	・全学級 ～学び合いを取り入れて～
	56年合同授業	1学期	・5・6年「わたしたちの考える楽しい授業①」
	アンケート実施	7月11日(木)～	・全学年調査「わたしたちの考える楽しい授業①」
	豊岡小学校研修に全員参加	7月24日(水)	・学び合いについて
第5回	学校課題研究会	7月25日(木)	・入間市教育委員会 指導主事 東海林 大 先生
第6回	学校課題研究会	7月26日(金)	・横瀬町立横瀬小学校長 浅沼 健一 先生
第7回	学校課題研究会	8月23日(金)	・2学期に向けて 研究授業計画
第8回	研究授業	11月18日(月)	・中学年ブロック 4年1組 奥村 教諭 【指導者】東海林 大 先生
	56年合同授業	12月中旬	・「わたしたちの考える楽しい授業②」
	アンケート実施	12月中旬	・「わたしたちの考える楽しい授業②」
	入間地区学力調査問題実施	12月～1月上旬	・1～6年生 算数科調査問題
第9回	研究授業	1月27日(月)	・低学年ブロック 2年1組 北 教諭 【指導者】浅沼 健一 先生
第10回	研究推進委員会	1月20日(月)	・令和6年度研究のまとめ方
第11回	学校課題研究会	2月10日(月)	・令和6年度研究発表会 (成果・課題・次年度に向けて)



どうしたら、授業が楽しくなるとおもいますか。(7月実施 対象：全校児童)



- 第1位 友達と一緒に学び合う時間をもっと多くする。
- 第2位 練習問題をもっとたくさん解く。
- 第3位 自分で考える時間をもっと多くする。

○アンケート結果から楽しい授業を追求

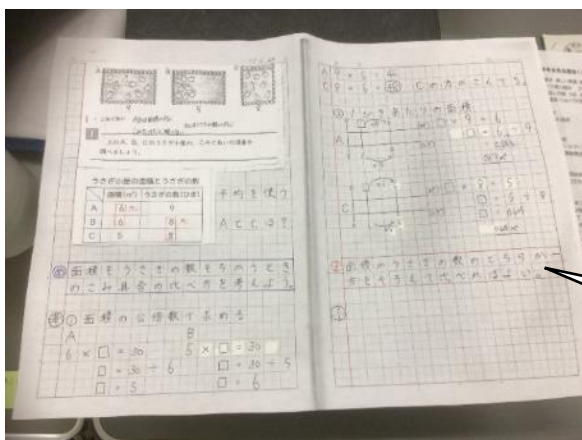


○低学年から学び合いの定着を図る。



○対話的な活動を通して学びを深める児

○ノートの取り方を改めて全校で統一し



3 今年度の研究の成果と課題

○各学年ごとに話し合いの型が定着してきた。それにより、課題解決が困難な時に、グループの中で話し合っ解決する姿が見られた。また、自分の考えを自然に言語化できる児童が増えた。

○落ち着き安心した環境(心理的安全性の確保)を作るために、ノートの取り方についても改めて全校で統一した。今後、タブレットでの記録についてもどのように両立していくか検討していく。

○家庭学習についても研究を進め、金曜日に全校で行う「ふらいでい」プリントの取組や、「読書の日」など、宮寺小独自のスタイルを確立してきた。

△ジャンプの課題で児童がわくわくするような課題を見つけることが難しい。

△個人の学習段階の見取りが授業内では難しい。

△児童同士の考えの繋ぎ方(ファシリテート)の難しさを感じる。

以上のことを踏まえて来年度の発表に向けて更に研究を深めていく。

研究テーマ 「共に学び合い 考えを深め合う児童の育成」

1 主題設定の理由

「令和の日本型教育」における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現していくうえで、「教える授業」から児童自らが主体的に「学ぶ授業」への質的転換が求められている。そのための有効な手立てとして、今年度本校では『学び合い学習』を取り入れ、授業改善に取り組んでいく。そのうえで、「茨城学びの会」代表を招聘し、指導助言を有効活用し、学習効果を高めていくことをねらいとして、本課題を設定した。

2 今年度の実践

○『学び合い学習』を導入した授業改善を行う。全学年・全学級で机をコの字に配置し、考えを深め合うような学び合い学習を実践する。

上記視点に基づいた授業実践と研究協議会、指導講評の様子



3年生 算数「ぼうグラフと表」



指導講評「茨城・学びの会代表」根本先生



5年生 国語「考えたことを伝え合おう」



研究協議会 グループでの話し合い

○家庭学習の定着を図る。そのために「黒須小家庭学習の手引き」を作成し「学年×10分」の学習時間を設定し習慣化を図る。

黒須小家庭学習の手引き

かていがくしゅう てび
家庭学習の手引き

入間市立黒須小学校
なまえ

家庭学習の目標

○毎日、必ず宿題と自分の考えた学習(自主学習)に取り組もう。
○学習時間のめやすは、**学年×10分**

家庭学習をしっかりとるコツ

コツ①...はじめる時刻を決めよう。

曜日	月	火	水	木	金
始める時刻					

※ お家の人と話しあって決めましょう。
※ できるだけ夕食前にするようにしましょう。
※ 見たいテレビや習い事のことも考えて決めましょう。

コツ②...身の回りを整えよう。

※ 机の正を整理しよう
※ テレビや音楽は、消しましょう。
※ 正しい姿勢でちゃんと座って、勉強しよう。

どりょく つまみかさき じぶんちから
努力の積み重ねが自分の力になります。

黒須小家庭学習カード

年 組 番 名 前	
今月の目標	
6月	自主学習 学習内容
1日 土	
2日 日	
3日 月	
4日 火	
5日 水	
6日 木	
7日 金	
8日 土	
9日 日	
10日 月	
11日 火	
12日 水	
13日 木	
14日 金	
15日 土	
16日 日	

17日 月					
18日 火					
19日 水					
20日 木					
21日 金					
22日 土					
23日 日					
24日 月					
25日 火					
26日 水					
27日 木					
28日 金					
29日 土					
30日 日					
○の数 合計				学習時間の 合計	分
ふりかえり (時間や内容について具体的にふりかえろう！)					

児童が取り組んだ自主学習『ベストノート』



3 成果と課題

(成果)

- 個の学びを大切に授業を実践したことで、一斉授業からの脱却の理念を全校で共有できた。
- 学習形態(ペア、グループ)の工夫が全学級に浸透し、その形での学習が充実した。
- 自主学習ノートを工夫することで、主体的な学びにつながる事ができた。
- 家庭(保護者)の理解と協力を得ることができた。また、家庭学習の習慣化を図ることができた。

(課題)

- ジャンプの問題を明記した授業デザインを工夫する。
- 学年の発達段階や学級の実態を踏まえた学び合いの授業づくり。
- 家庭学習に対して意欲的に取り組む児童とそうでない児童の差が大きい。
- 家庭学習カードへの毎月の記入が同じで実際に取り組んでいるのか曖昧なものもある。



「自分の考えを表現し、学び合う児童の育成」

～安心の中で生まれる対話を目指して～

1 主題設定の理由

本校の実態として、学力については全国や県の平均を上回っている項目が多いが、その一方で自分の考えを他者に伝えること、表現することに苦手意識を持つ児童が多いという課題がある。

そこで誰にとっても安心した学びの場をデザインしたり、学び合いやICTを活用した学習を行ったりすることを通して、自分の考えを表現する力を高めていきたいと考えた。また、本校児童の実態を踏まえ、「主体的」を「自分の考えを表現」とより具体的に捉え、今年度は研究テーマを「自分の考えを表現し、学び合う児童の育成」とした。

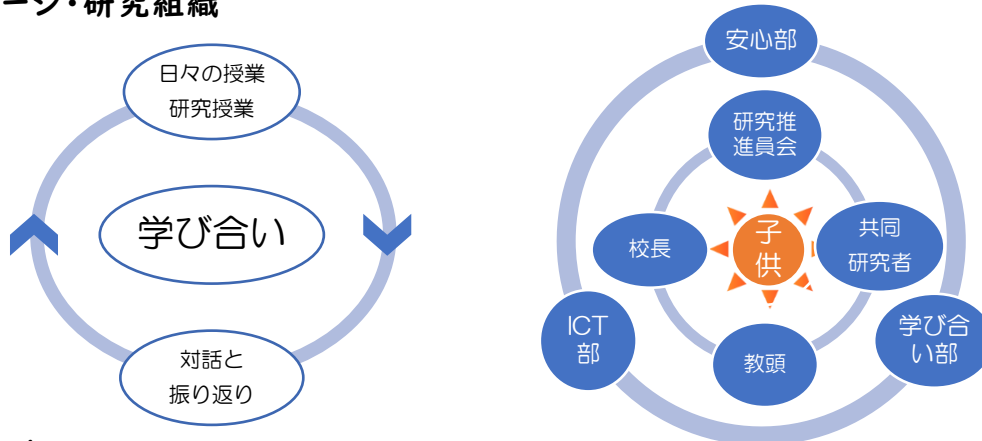
2 研究の概要

(1) 研究仮説

心理的安全性を確保し、学び合う場を設定すれば

主体的な(自分の考えを表現する)児童が育つだろう。

(2) 研究イメージ・研究組織



(3) 研究のあゆみ

4月4日	研究推進委員会	今年度の研究の方向性の確認
4月8日	校内研修全体会	今年度の研究の共通理解、グループ対話
6月12日	全体研修会	4年生算数「角の大きさの表し方を調べよう」指導案をもとに複線型授業について考える 指導者入間市教育委員会 指導主事 武内 秀樹先生
6月26日	講演	(上藤沢中学校区合同) 講師：学びの共同体研究会 スーパーバイザー 谷井 茂久 先生
7月23日	校内研修全体会	1学期の振り返り
8月28日	研究推進委員会	2学期以降の取組の検討
9月2日	校内研修全体会	2学期以降の取組の共通理解

9月13日	全体授業研究会	6年2組 橋本 康弘 教諭 社会「武士の世の中へ」 指導者入間市教育委員会 指導主事 武内 秀樹先生
10月29日	部長会議	安心部、学び合い部、ICT 部の活動計画を検討
11月11日	校内研修全体会	安心部、学び合い部、ICT 部の活動計画を確認
11月25日	全体授業研究会	4年3組 伊藤 綾香 教諭(算数専科) 算数「分数」 指導者入間市教育委員会 指導主事 武内 秀樹先生
11月26日	ブロック授業研究会	6年1組 佐藤 祐也 教諭 算数「関係に注目して」 指導者入間市教育委員会 指導主事 武内 秀樹先生
1月 9日	研究推進委員会	児童アンケート分析、3学期の取組の検討
1月27日	校内研修全体会	安心部、学び合い部、ICT 部の活動計画を確認
2月7日	校内研修全体会	今年度の振り返り、次年度の取組の共通理解

(4) 具体的な取組

安心部

(主な研究内容)

- ・児童に心理的安全性を確保するための教師の関わり、支援、手立て等

(仮説に対する手立て)

- ・職員の同僚性を基盤にした安心できる学校づくり
- ・児童、職員アンケートの実施

学び合い部

(主な研究内容)

- ・学び合い(東小 ver)の検討、作成
(+複線型授業 等)

(仮説に対する手立て)

- ・児童たちがワクワクする授業デザインの研究
- ・ジャンプの課題づくり

ICT 部

(主な研究内容)

- ・ICT活用力向上のための取組
- ・ICT 活用のための環境整備

(仮説に対する手立て)

- ・ICT機器の整備
- ・学習アプリの導入
- ・ICT 活用方法の研修、共通理解

E カフェ、E ランチ

毎回テーマを設定し、日々の教育実践をもとにお互いの考えを自由に対話し合う場を設ける。

第1回 6月 6日「子供の権利と学級経営」

第2回 8月20日「ジャンプの課題」

第3回11月22日「児童の安心のために」

第4回12月13日「職員の安心のために」

第5回 1月7日「民主主義をどう教えるか」

3 成果と課題

○成果

- ・安心部、学び合い部、ICT 部に分かれ、部長を中心に具体的な取組を検討することで、教員が自主的に考え、研究を進めることができた。
- ・学び合いや ICT の活用を中心とした研究授業を行い、協議会ではグループ対話することによって、お互いの意見の違いを知ったり、共通理解を図ったりすることができた。
- ・E カフェ、E ランチを行うことで学年やブロックをこえて自由な意見交流、グループ対話を行うことができた。

△課題

- ・ジャンプの課題に対して児童の取組がこちらの意図と異なる時もあったため、実態に合わせたさらなるジャンプの課題づくりが必要である。

研究主題

「一人残らず子どもの学ぶ権利を実現し、その学びの質を高める」

～ 「学び合い学習」 個人研究を通して ～

入間市立豊岡中学校

【研究の概要】

- 1 「学び合い学習」の継続……継続は力なり（13年目）
- 2 「3つのテーマ」に即して、全教員が個々に研究を進める。
テーマ：①ジャンプの課題 ②ファシリテーター ③その他
- 3 年2回のフォーカス授業とサテライト授業の実践及び研究成果の発表。

【研究の取組】

- 1 4月4日（木）校内研修
・学校研究の方向性と研究内容について
- 2 5月22日（水）埼玉大学附属中学校 研究発表会視察
- 3 5月27日（月）校内研修
・サテライト授業、フォーカス授業の取組について
- 4 5月28日（火）授業研究会
・3校時、4校時をサテライト授業として公開
・5校時、2年1組吉村太一教諭による国語科のフォーカス授業
指導者：スーパーバイザー 谷井 茂久 先生



- 5 7月11日（木）入間市立黒須中学校 授業研究会視察
- 6 7月19日（金）校内研修
・個人研究のテーマ別にグループ協議
Aグループ：ジャンプ課題や共有課題の設定と工夫①
Bグループ：ジャンプ課題や共有課題の設定と工夫②
Cグループ：ファシリテーターとしての役割
・個人研究の目標決定
- 7 8月21日（水）校内研修
・作成した指導案の検討
・グループごとの説明と検討

- 8 8月27日（火）校内研修
- ・生徒に学校全体としてとるアンケート項目の検討
 - ・生徒に個人研究に必要なアンケート項目の検討
 - ・実施時期の選定
 - ・教員アンケートの作成について
- 9 9月6日（金）川口市立神根中学校 授業研究会視察
- 10 9月中旬～下旬 西部地区学力向上のための授業研究科会に向けた取り組み
- ・国語科、数学科、外国語科でサテライト授業の実施
- 11 10月16日（水）青梅市立泉中学校 授業研究発表会視察
- 12 10月24日（木）西部地区学力向上のための授業研究科会
- ・国語科 3年2組 黒澤真一郎 教諭
指導者：ふじみ野市教育委員会 指導主事 竹内寛人 先生
 - ・数学科 1年1組 山崎真菜美 教諭
指導者：日高市立教育センター 指導主事 高橋育秀 先生
 - ・外国語科 2年3組 小池雄大 教諭
指導者：狭山市立教育センター 指導主事 上村綾子 先生



- 13 11月中旬～12月上旬
- ・アンケートの実施（学び合いに関する生徒の実態調査）
- 14 12月9日（月）入間市立上藤沢中学校 授業研究会視察
川口市立北中学校 授業研究会視察
- 15 1月8日（水）校内研修
- ・アンケートの結果の周知と今後の対策の検討
- 16 2月3日（月）新座市立第三中学校 授業研究会視察
- 17 2月4日（火）授業研究会
- ・3校時、4校時をサテライト授業として公開
 - ・5校時、2年2組小嶋佑介教諭による社会科のフォーカス授業
指導者：スーパーバイザー 谷井 茂久 先生

【成果と課題】

成果：今年度は、個人研究の充実を図った。教師個人個人が授業改善を試み、学び合いの研究を行うことができた。教師どうして意見を交わし、より良い方向へ課題を設定できるかの話し合いがもたれ、教師の資質向上につながっている。

課題：今後は、生徒の学ぶ意欲の向上や仲間と協力して課題解決に臨もうとする意欲の向上を目指して、安心して学べる環境づくりの構築を図っていく。

まだ、個々の目標が達成できている訳ではないので、引き続き研究に取り組んでいき、来年度の研究発表に繋げていく。

『効率的な研修体制づくりを通じた「学び合い学習」の実践』

1. はじめに

本校は、「机ピッタリ、物スッカリ」「ねえ教えて」「一緒にやろう」「失敗を恐れず挑戦する」「自分の考えを持ち、伝える」も浸透し、学び合い学習もカタチになってきた。ジャンプ課題の設定、教師の関わり方など、さらなるレベルアップを図るべき内容を、効率的でサステナブルな研修を考え、構築していく中で獲得していこうとしている。

2. 校内研修の内容

(1) 効率的でサステナブルな研修体制づくり

目指す研修のカタチ…時間は短く、負担は軽く、参加して楽しく、実のある研修

① R6 夏季研修 (7/19)

研修に対して気が重かったり、消極的になってしまう理由	どうしたら『気軽に』『進んで』参加できるような研修になるか
・忙しい、時間が無い ・難しい ・興味が湧かない ・話を聞くばかり ・活かしていない	☆長期休業中に ☆回数減、短時間、時間限定で ☆必要なこと、学びたいことを取り上げる 〈研修リクエスト〉 ☆脱講義型 → 目指す参加型 ☆論より実践、具体例・実践例を @そのまま使えるものを持ち帰りたい
授業研究 やりたくない	☆批判的にならない ☆良い点を褒める ☆褒めた上で改善策

② カジ研（カジュアル研究授業）←→フォーカス研究授業（F研）

授業者－指導案不要

授業者・参観者－研究協議なし

参観者－空き時間で無理なく「見学メモ」

子どもの活動に注目して

子どもが動いた発問・発言・つぶやき

1人2回以上、「ジャンプ課題」にチャレンジ

③ フォーカス研究授業（F研） 今年度2回（①6/24、②12/9）

午前中は拡大カジ研、午後1クラスだけ残して研究授業、外部指導者招聘

研究協議－ワールド・カフェ形式 グループの発表はしない

④ 「談話室マドガワ」

アラームを使い、必ず15分で必ず打ち切る教科部会

授業時間に設定 他教科の参加もOK

通算回数・日時・参加者・内容だけを簡単に記録

⑤ 「テラC0ヤタ」

必要に応じて、職員を講師にして開く、フリー参加型のミニ研修

講義内容＝リクエストに応える リクエストBOXの設置

アラームを使い、30分で必ず打ち切る

⑥ 学びあいを推進している学校の視察研修

武蔵中、川口市立神根中、神奈川県横須賀市立野比中 ほか

(2) 学び合い

① 『具体例（実際の授業）からジャンプ課題について考える』（8/21）

講師として「学びの共同体研究会」の馬場英顕先生をお招きし、ジャンプの学びとその課題について、【HOW TO】の話ではなく、馬場先生がそれまでに会った授業の中から、学ぶこと・考えさせられることの多かった授業（ダイジェスト）を見た。授業事例にもとづき、どんな課題がどのような構想のもとで使われ、実際に子どもたちがどう学んでいるかを学んだあと、馬場先生のアドバイスを受けながら教科毎にジャンプ課題を作成しました。

馬場先生からの指導のポイント

ジャンプ課題を考えるツボは「探究」にある 「伝達」→「探究」へ転換

伝達…仲間との対話と教師の支援に支えられて教科の本質につながる課題について子どもたちが解決策を探究する

「転換」が難しい理由

教師になるまでの過程で「探究する」経験をしていない

教師になってからも「探究する」学びを経験ことが乏しい

「探究する」学びの経験者が周囲にあまり見当たらない

ジャンプ課題を作成するコツ→既成の課題を「探究」をキーワードにして改作

ジャンプ課題の適切な難易度→「難易度」ではなく「探究」への転換を図る

ジャンプ課題を設定するために→その単元の本質は何かを明らかに

その課題の面白さはどこにあるのかを分析

習得される基礎・基本は何かを明らかに

② 教師の関わり方

途中で生まれてくる課題 ←ここに眼を向けたい

授業中に漏れてくるつぶやき、あいまいな発言に埋もれている子どもの疑問を課題として整えて提起

子どもの発言を聴き、埋もれた意味をとっさに、ひとりで解釈しなくてはならないので難しい

子どもの様子を細やかにみつめる

黙って教室の前方から学びのようすをみる。

ひとりボッチの子や停滞しているグループはないか。

「まず班の子にきいて。それでもわからなかったら私にきいて」を徹底する

「困っているみたいだね。何困っているの？聞かせて」

その班やその子のそばに行ってつなぐ。最初の言葉は「どうしたの？」



8/21 夏季研修会のようす

ジャンプ課題作成ゼミとして、教科ごとにグループを組み、馬場先生の指導を仰ぎながら、ジャンプ課題を考えました。

3. 今後に向けて

この研究は市研究委嘱を受けているもので、来年度が本発表となるが、本研究が「発表のための研究」となり、本発表以降に研究が尻すぼみとなり、途絶えてしまわないようにしたい。研究課題が「効率的で持続可能な研修体制づくり」であることを念頭に、本研究を毎年マイナーチェンジしながら継続できるようにしたい。

研究主題

「自分を磨き仲間と伸びることができる学び合う学級の実現を目指して」

入間市立上藤沢中学校

1 主題設定の理由

本研究を通して、教員が生徒理解を深めながら、心理的安全性の担保された学級を実現し、落ち着いた生活の中で互いに学び合い・高め合う生徒を育成することを目的として、本主題を設定した。今年度は委嘱研究初年度のため、学び合い学習の基本を全教職員が理解し、各々の授業改善に向けた土台作りの一年として、研究を進めていく。

2 実施内容（研究初年度のテーマ「学び合い学習の基本を全教職員が正しく理解する」

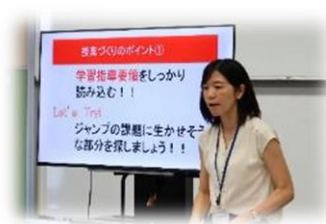
- ① 6月26日（水）、学びの共同体研究会・スーパーバイザー谷井 茂久 先生 を招聘し、講演とともに指導・助言をいただき、学び合い学習の基本の知識を学んだ。「協同の学び」を通して、一人残らずこどもの学びを保障するという考えの「探究と協同の学びの成立要件」等について理解を深めた。また、学び合い学習を進めていく上で、「安心感・平等感」の担保された教室づくりが前提にあるということを学び、授業力の向上と学級経営力の向上は一体であるということの共通理解を図ることができた。



- ② 8月21日（水）、上藤沢中学校区3校（藤沢南小学校、藤沢東小学校、本校）合同夏季研修会にて、「教職員が学び合い学習を体験し児童・生徒目線を感じ理解を深める」という内容の体験型研修を行った。学び合い学習の研究を進める中で、多くの先生方から「自分が児童・生徒として学び合い学習の授業を受けた経験がない中で、学び合いの授業を構築していくことが難しい」という声が寄せられた。そこで、三校合同研修会において、前任校等で学び合い学習の実践が豊富な3名の先生方に教師役となってもらい、それ以外の先生が児童・生徒役となり、実際に授業を体験する研修を実施した。「授業をする側」ではなく「授業を受ける側」を体験することにより、児童生徒目線での気づきを多く感じ取ることができ、各々の授業改善に向けた貴重な資源獲得の機会となった。



- ③ 9月2日（月）、授業力向上のための支援訪問として、西部教育事務所・指導主事 山井 葉里子 先生を講師として招聘し、フォーカス授業（2年生・英語）を実施した。共有の課題やジャンプ課題の設定等の授業構成や、実際の授業作りのポイント等について指導・助言をいただいた。6月の谷井先生からの指導同様、安心感のある教室づくりが学び合い学習の核となるとの指導をいただいた。



- ④ 2学期中盤から先行研究授業を4教科（社会・国語・技術・美術）で実施し、市教委指導主事の先生方等を指導者として招聘し、各教科における学び合いのポイントやジャンプの課題に関する基本的な考え方等について指導・助言をいただいた。



- ⑤ 12月9日（月）、学びの共同体研究会・スーパーバイザー 谷井 茂久 先生 を再度招聘し、フォーカス授業（3年・理科）を実施した。谷井先生には、午前中3、4校時の全授業を参観していただき、本校の学び合い学習の進捗状況を確認していただくとともに、今後の課題や授業改善に向けたポイント等についてご指導いただいた。午後の研究協議では、本校職員・参観者混合の小グループに分かれ、それぞれの教科の特性や、発達段階への配慮、共有の課題からジャンプ課題へのつなぎ方やジャンプ課題の設定等について協議を行った。谷井先生からは、フォーカス授業に関する指導はもとより、ジャンプ課題の設定についてより詳しく指導・助言をいただき、学び合い学習の実践に向け、より理解を深めることができた。



3 次年度の研究発表に向けて

次年度の本発表に向け、今年度中に全教職員が外部指導者を招聘し、学び合い学習にフォーカスした研究授業に取り組む。また、教職員一人一人が自らの学級経営を根底から見直し、複眼的視点を持って生徒・保護者理解を深め、心の通った適切な対応に取り組み、学び合い学習の基盤となる「安心感・平等感」の担保された教室づくりを目指す。

今年度は学び合い学習推進の土台作り（インプット段階）であったので、次年度は教職員一人一人が実践力・授業力の向上（アウトプット段階）により一層取り組み、学び合い学習の質の向上に取り組んでいきたい。来年度も谷井先生をはじめ、外部講師を計画的に招聘し、授業改善を着実に進めていきたい。

研究テーマ

4 5 分間学び続ける授業の創造（「学び合い」を通して）



1 主題設定の理由

「学び合い」の手法を積極的に取り入れた、「誰ひとり取り残さない教育課程」を実践し、児童が安心して学習に取り組むことで、確かな学力を養う。

2 研修の概要

(1) 今年度の実践

教員1人1人の授業力向上をねらいとして、右の3つの柱を中心に研究を推進。

また、児童の学習環境を整えるための客観的資料として、Q-Uアンケート、埼玉県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査を分析、研修会を実施。

学力向上

全体授業研修会（各ブロック）

個人テーマに基づく授業（教員1人1人）

先進校視察

授業研修の視点

- ① 児童1～2名に着目し、「どのように学びが続いているか」「どのように学びが深まっているか？」を見る。
- ② 指導方法や児童の学びから、「教師として新しく気付いたこと」を考える。
- ③ 児童・教師ともに「よい所」を中心に见つける。
- ④ 学習活動における児童のつまづきポイントを見る。

年 組	担任名	個人テーマ	教科/領域
1	1 榎本	自分と相手の思いを大切にし、合意形成ができる子を持つ	学活
1	2 阿部大	視覚覚醒器を用いて、考えを深め合う授業の工夫	算数
2	1 高津	文字を大切にし、日常に生かす書写学習	書写
2	2 今村	他者に誇り、多様な考えを受け入れられる学び合いの授業をつくる	道徳
3	1 穂積	一人一人の思いを大切にし、日常生活や健康安全上の課題解決に取り組む実践活動（2）	国語
3	2 山添	他者と関わり合い、聴き合い、学び合いに向かう姿勢の育成	学活
4	1 川成	一人一人の思いを大切にし、折り合いをつけて話し合いのできる実践活動	学活
4	2 平井	「英語学習がどう楽しいか」を進んで取り受ける楽しさの語彙を増やす→外国語活動を通して	外国語
5	1 伊豆	互いの力をかけ合い、多くの活動を通して達成感を味わえる授業の実現	体育
5	2 川端	自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞かなくていいかな、字を覚えるの達成作	国語
5	3 土屋	「学び合い」が成立するための「ジャンプ」の課題の創造	算数
6	1 細野	一人一人の思いを大切に、頼るを重むる子を持つ	学活
6	2 石井	考えををなご、聴き合いが学ぶ喜びを通して	国語
ふじ	吉田	友達と関わり合いながら、目標を達成する喜びがわかる授業の探究する	算数

←個人テーマを設定し、授業研修



学んだことを資料にまとめ、全体で共有→

[illegible]

3 研究の成果と課題

（1）成果

- ・全体授業研修会（指導者を招いて）、個人テーマ研修、先進校視察の3つの柱を中心とした研修を設定することで、教員1人1人が「学び合い」学習の手法についての知識を深めると共に、授業力向上に結び付けることができた。
- ・全てにおいて、指導者からの助言や学んだことのふりかえりを職員間で伝え合う形にしたことで、学校（教員）全体で学びを共有することができた。
- ・児童が学ぶことの楽しさを実感することで、家庭学習時間の向上につなげることができた。

(2) 課題

- ・学級の実態を踏まえた学び合いの授業づくりの深化。
- ・お互いの授業をより見合えるための教育課程の工夫。

「学び合い」を通して、支え合い、逞しく生きていく子どもたちの育成 ～教員間の「学び合い」による継承と深化～

1. はじめに

「これどうやるの?」と周囲に呼びかけ、支えられながら解決しようとする姿勢は、その子がこれから生きていく上で、とても大切なことである。さらに理想としては、呼びかけた子と呼びかけられた子の関係は、一方的な上下関係ではなく、協働的で互恵的な関係であってほしい。2年前から、西武小では、迷い・悩みながらも自分たちなりに考え、協力しながら「学び合い」に取り組んできた。その成果は、子どもたちや職員の中に少しずつ、確かに根付いてきている。今後も本研究を継続していきたい。

2. 研究の概要

図1:計画→

①職員一人ひとりが研究教科とテーマ(図2)を決め、一人一回授業を行う。

②グループ内(図3)で授業参観・協議を実施する。

③指導案は、授業デザインとして位置づけ、簡略化する。

の3点を本年度も研究の基本方針とした。なお主な計画

は図1の通りである。また、昨年度の「個人・グループ研究になったことで、「学び合い」の授業像を共有することがより困難になった」という反省を受け、以下の2点を追加して実施した。

①年度当初、継続して西武小に在籍している職員に、「学び合い」の示範授業を実施してもらった。

②全公開授業の協議会の内容を IC レコーダーで記録し、文字起こし、整理したものを研究通信として発行する。

月日	項目	参加者	場所
1. 4月4日(木)	研究推進委員会①	研究推進委員	図書室
2. 5月13日(月)	学校研究①(職員会議)	全職員	職員室
3. 6月24日(月)	学校研究②(学年別)	全職員	職員室
4. 7月24日(水)	学校研究③(グループ別)	全職員	グループ研修
5. 9月9日(月)	学校研究④(グループ別)	全職員	グループ研修
6. 11月18日(月)	研究授業・研究協議会①	全職員	授業者教室、体育館
7. 12月2日(月)	研究授業・研究協議会②	全職員	授業者教室、体育館
8. 1月27日(月)	研究授業・研究協議会③	全職員	授業者教室、体育館
9. 3月10日(月)	研究推進委員会②	研究推進委員	校長室

氏名	研究テーマ
1. 加藤 智	家庭、生活に寄り添った授業において、子ども一人ひとりの多様な課題を受け入れ、共感し合えるような授業づくり。
2. 塚本 純	音楽、音楽の仕組みを生かして、学び合いを活用した音楽づくり。
3. 小林 光之	国語、単元の特性に照らして、学びが楽しさを生み出す授業づくり。
4. 石井 文子	国語、ペア学習を中心とした、読書合うこと・学び合うことの楽しさを味わえる授業づくり。
5. 平山 悠翔	算数、互いに考えを共有し、楽しみながら学び合う授業づくり。
6. 森田 富雄	国語、共に学び合う関係づくりをめざして。
7. 福山 知大	国語、学び合いを通して、多様な考えを認め、自分の思いや考えを広げる力の育成。
8. 文字山 凌征	国語、ペア学習を通して、考えを認め合い、「わかった」「できた」を実感できる授業。
9. 中田 昌平	算数、課題に最後まで取り組み、互いに深め合う授業。
10. 河野 洋一	社会、自分たちの暮らしと地域社会とのつながりを実感できる社会科の授業。
11. 成瀬 美緒	算数、自分の考えを表現し、深め合う授業づくり。
12. 秋葉 美晴	算数、お互いの考えを聴きながら学び合い、わかるにつなげていく授業。
13. 諸川 大地	算数、自分の意見と共有し、互いに学ぶ授業づくり。
14. 池田 直人	道徳、「学び合い」を通して、善事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める授業展開。
15. 吉野 恭平	算数、聴き合うことで「わかる」が増える授業づくり。
16. 井上 愛理	社会、自分たちの周りに関して考え、多様な意見を出し合い、学び合う。
17. 篠塚 優子	国語、読み味わう物語文の学習。
18. 島山 知大	社会、自分の考えを伝え合い、学びを深める授業づくり。
19. 田村 優輝	体育、子ども一人ひとりが、自分自身の課題を認識し、考えを述べてその解決のために動いていく授業。
20. 吉田 慎太郎	社会、自己の考えを持ち、伝え合う中で、学びを深める関係が構築される授業づくり。
21. 江崎 俊	体育、学び合いを通して、運動の特性(楽しさ)を味わう授業づくり。
22. 野口 真友花	社会、Link up! 資料・児童の職業と愛情。
23. 青木 愛永	算数、聴き合うことで、仲間と共に学ぶ楽しさやよさを実感できる授業づくり。
24. 山口 京子	生単、子どもたちの「生きる力」を育む単元活動の工夫。
25. 宮寺 邦太	体育、チームゲームを通して学び合い。

←図2:職員研究教科・テーマ

石井 文子 1年 国語	福山 知大 2年 国語	井上 愛理 4年 社会	河野 洋一 3年 社会	田村 優輝 5年 体育
文字山 凌征 2年 国語	池田 直人 4年 道徳	野口 真友花 6年 社会	島山 知大 5年 社会	江崎 俊 6年 体育
塚本 純 教務 音楽	篠塚 優子 5年 国語	小林 光之 教務 国語	山口 京子 生単 生単	宮寺 邦太 杉の子 体育
森田 富雄 1年 国語	秋葉 美晴 3年 算数	平山 悠翔 1年 算数	諸川 大地 3年 算数	
吉野 恭平 4年 算数	成瀬 美緒 3年 算数	青木 愛永 6年 算数	中田 昌平 2年 算数	
吉田 慎太郎 6年 社会	加藤 智 教務 家庭			

図3:グループ分け

3. 成果と課題(○成果、△課題)

○子どもの学びを見取り、協議会で発言することができる職員が増えてきた。

○公開授業に向けて、職員一人ひとりが「学び合い」と向き合っていた。

○研究通信によって、各職員の公開授業の工夫や課題、今後の研究を進めていく上で大切になりそうな言葉や考え方を共有することができた。

△教員の入れ替わりが少なくなく、「学び合い」そのものの理解も難しいことから、研究をいかに継続していくか。

△西武小の「学び合い」のスタイルを、どこまで具体的に、どのように定めるか。

「他を認め合い、学び続けることで、自信を育む学校」を目指して ～共に学び合うことで、探究し続ける児童の育成～

1 「学び合い」について共通理解を図る

(1)「学び合い」とはどのような学習方法なのか、共通理解を図る

上藤沢中学校区合同研修会で模擬授業を行ったり、講演会を行ったりすることで、「学び合い」とはどのような学習方法なのか共通理解を図ることができた。



(2)先進校視察

「学び合い」の授業がどのようなものなのか、具体的な児童の姿、指導方法を見るために先進校の視察を行った。

2 学校指導訪問を通して指導力向上を図る

9／4(水)に西部地区教育事務所、入間市教育委員会による学校指導訪問があった。

4月から取り組み始めた「学び合い」の学習形態に挑戦し、指導を受けることができた。



3 授業研究会を実施して「探究し続ける児童の育成」を目指すうえでの課題点を確認する

11／18(月)に授業研究会を校内で実施した。参観した授業をもとに、「どうすれば児童は学び続けることができるのか」という視点で研究協議会を行い、自分の授業を振り返ることができた。



4 成果と課題

(1)成果

○授業研究会、指導訪問等を通して、「学び合い」学習について理解を深めることができた。

(2)課題

○本校の実態に応じた「学び合い」学習へしていくために、より研究を進めていきたい。

1 はじめに

本校では、「生き生きと意欲的に学び続ける藤北っ子の育成」を主題に設定し、「学びあい学習」を取り入れた授業づくりを行った。3部会では、学びのスタンダードづくりや心理的安全性のある学級づくり、学びあいを取り入れたことによる児童の変容についてまとめるなどの取り組みを行った。また、各学年による授業研究会を通して、よりよい学び合い学習に向けて研究協議を行った。

2 研究仮説

- ① 心理的安全性のある学級づくりを行えば、安心して仲間に疑問を訊き、協働的に学ぶことができるであろう。
- ② 児童同士関わり合いながら学ぶ授業を行えば、学びを深めることができるであろう。

3 研究の取り組み

(1) 3部会による「学び合い」に向けた取り組み

(2) 各学年による授業研究会

「一人ひとり取り残されずに学べていたか。」を協議題とし、児童観察に特化した授業研究協議会の実施

4 成果と課題

(1) 成果

- 「やってみないと、成果も課題も生まれない。」を合言葉に、全教職員が、学び合いの形態（T字型）を積極的に取り入れて授業を展開している。
- オクリンク、オクリンクプラスの積極的な活用。
- 校内研究の目標を「訊くことができる（わからないから教えてと言える）」子を育てること1本にしていることで、教職員がその目標に向かって、心理的安全性のある学級づくり、学び合いの授業の展開をしようと努力している。

10年次教員による
算数授業研究協議会

3年次教員による
算数授業研究会

3部会による
学び合い充実に向けた研修

児童観察に特化した
授業研究協議会



(2) 課題

- 学び合いへの興味関心が高まっている一方で、教職員の中には、「学力は向上するのか。」など、まだ疑念を抱える教職員もいる。学び合いへのさらなる理解が必要。
- 「訊くこと」が苦手、できない子への手立て
- 訊き合う場面での話の広げ方（疑問を投げかけたり、切り返しをしたり）
- 全教職員が一斉指導の脱却にまだ踏み込めていない。

研究主題

「学び合いを通して、自己効力感を高めることができれば、学力が伸びるだろう。」

入間市立仏子小学校

1 主題設定の理由

「入間市の豊かな人間性の育成」を基本理念に、『豊かな人生とよりよい社会の実現に向け、主体的に考え、行動できる人を育む』（中田教育長）ことから、昨年より「学び合い」の授業を実践してきた。これにより児童の自己効力感が高まる様子が見られるようになった。そこで全国学力学習状況調査及び埼玉県学力学習状況調査から、本校では自己効力感を高めることで学力が伸びると考えた。

2 今年度の実践

令和 6 年度はジャンプ問題が行いやすい算数科に絞った。また、代表による提案授業（低・中・高、各 1 名）と 1 人 1 公開授業を実施した。あわせて、ジャンプ問題の検討や児童アンケート実施と分析も実施した。

（１）学び合いの手法の確認（４月・７月）

- ①ペア学習：男女のペアの座席配置、グループ学習、聴く態度の育成（教師の話し方）、課題づくりの工夫

（２）校内授業研究会を実施（９月・１０月・１月）※１月は予定

- ① 6 年 1 組 長澤 衛 教諭、算数「円の面積の求め方を考えよう」
指導者 入間市教育委員会 学校教育課 指導主事 田中 優人
- ② 3 年 1 組 宮澤 拓行 教諭、算数「大きい数のかけ算のしかたを考えよう」
指導者 埼玉県教育局西部教育事務所 指導主事 不破 克人
- ③ 1 年 2 組 古川 航大 教諭、算数「かたちづくり」
指導者 学びの共同体スーパーバイザー 谷井 茂久

（３）１人１公開授業（ジャンプ問題提示）

（４）ジャンプ問題の検討（各校内研修にて）

- ・学年で熟考したジャンプの問題を校内研修全体会に提案した。全体会では、複数のグループに分かれて、この問題を検討した。提案した学年は、修正し授業に臨んだ。

（５）学校研究アンケート分析

- ・５月：児童アンケート（前期）、１１月：児童アンケート（中期）を実施
- ・１２月：前期・中期のアンケートを比較分析

3 成果と課題

- 各学級、ペア活動やグループ活動が浸透するようになった。
- ジャンプの問題を取り入れたことで、児童が学びに対して意欲的になった。
- 教員集団の協働の意識が高まり、活気のある教育活動が展開できた。
- 優れた「ジャンプ課題」の設定とファシリテーターとしての技術を向上させるため、日々の実践を積み重ねる必要がある。
- 学び合いの手法を生かした授業改善と学力の相関関係を今後検証する必要がある。

研究主題

一人もとりこぼさず、だれもがわかる・できる授業づくり ～国語科の指導を通し

1 研究仮説

全児童が授業に参加するための工夫をすることで、一人もとりこぼさずだれもがわかる・できる授業づくりができるであろう。

2 手立て

①授業の焦点化

- ・その単元で学ばせる指導重点事項を一つに絞り、授業の焦点化を図り、児童が授業を理解しやすくする。

②児童の実態把握

- ・前学年での指導事項、指導内容、児童の様子・理解度の把握をする。
- ・単元テストや学力テストによる理解度、苦手な事項の把握をする。

③学び合い

- ・学び合いの場を設定し学び合いを通して、全員が授業に参加できるようにする。
- ・児童の実態に合わせた学び合いの仕方にする。
- ・共有の課題とジャンプの課題を入れる。

④授業のUD化

- ・ICTを活用した授業を行う。
- ・単元の流れ、1時間の授業の流れがわかる掲示や板書をする。
- ・ICTを使った配慮を要する児童への支援をする。

⑤授業のふり返りの充実

- ・この時間で(この学習で)何を学んだかをふり返る。
- ・この学習を通して、何ができるようになったかをふり返る。
- ・「わが友や」の視点

⑥授業時間以外の活用

- ・読書活動の推進、充実をする。
- ・家庭学習で自主学習に取り組む。

3 授業研究

各担任が取り組みたい単元、内容で授業を行った。

1年生	じどう車くらべ
2年生	お手紙
3年生	すがたをかえる大豆
4年生	ごんぎつね
5年生	大造じいさんとガン
6年生	やまなし
特別支援学級	さがせ！たからもの！HW！、主語と述語



4 成果と課題

校内で指導者を立てたことで、各担任がチャレンジしてみたい単元、内容で授業を行うことができた。また、ジャンプ課題を設定することができた授業も増えた。児童に委ねた授業ができるようになってきているが、話し合いが広がりすぎてしまい、内容が深まりきらない時があるなど、課題も残った。

児童が主体的に授業に取り組み、学び合いを効果的に行っていくには、学習課題の言葉の選び方や学び合いの話題の設定の仕方、学び合い後のまとめの仕方を工夫していく必要があるので、今後も研修を深めていきたい。

研究主題 主体的に学び、表現する児童の育成

～ 子どもたちが学びあう算数科の授業の工夫 ～入間市立東町小学校

1 はじめに

本校では、令和4・5年度に入間市教育委員会・教育研究会の委嘱を受け、体育科の研究と実践に取り組んできた。その際、子ども同士が学びあいながら高めあう授業実践を行い、その土台の上に令和6年度は算数科の授業改善に取り組んできた。学びあいの授業改善、ジャンプの課題設定、座席の配慮等、課題意識をもって研修を進めてきた。

2 今年度の実践

① 学びあいの理論研修 入間市教育委員会 指導主事 田中優人先生



本校では、夏季研修の中で、学びあいを行うにあたって、授業をどのように進めていけばよいのかご教授いただいた。また、職員から疑問の多かった、ジャンプの課題設定をどのようにしたらよいのかということや、座席のグルーピングについてのご指導をいただいた。また、研究主任や授業者が他校の研究授業に参加したり、講演会に参加したりして学びを深めた。

②授業研究会 全体研修(低学年ブロック)・中学年ブロック研修・高学年ブロック研修



ブラインド効果



ペアで図形操作



ICTでの学びあい



座席の工夫



デジタル教科書活用



思考を視覚化し共有

視点①児童が主体的に学習しているか 視点②児童が学びあうことができているか 視点③学習形態は有効かどうかという視点に基づいた研究授業を実践した。「授業研究部」は指導案検討や、ジャンプ課題の検討を行い、「調査環境部」は学習環境整備、算数コーナーの設置、ワークシートやデジタル教材の研究と役割を分担して取り組んだ。

3 成果と課題

- 学びあいの授業について職員が共通理解を持ち、授業改善につなげることができた。
- 座席の配慮では、学年や学級の実態に応じて、コの字型にしたり、グループにしたりした。
- △ペアやグループの質をより高めていくための、配慮や支援の方法を検討していく。
- △ジャンプの課題を検討し、資料として積み重ねていく必要がある。

研究主題 「自分の考えを持ち、表現できる児童の育成」

1 主題設定の理由

本校では、昨年度まで「児童が互いに認め合い、のびのびと自己表現できる学級と学びの土台作り」を研究主題とし、図画工作科・算数科・国語科において研究を行ってきた。しかし、ここでは学級づくりと学習の土台作りの2点が示されており、どのような児童を育成していけばよいのかが難しく感じる部分があった。そこで「児童の育成」という形で研究主題をまとめることで、児童の学力向上を念頭に置いた研究が進められると考え、研究主題を「自分の考えを持ち、表現できる児童の育成」とした。



2 研究の概要

(1) 手立てについて

① 自分の考えを持てるようにする。

〈特活〉・学級会ノートの活用 ・折り合いの術

〈体育〉・多様な活動で、できた体験を積む ・ICTの活用で動きの見える化

〈道徳〉・アンケート結果を示す ・自分の立場を明確にする

② 自分の考えを表現できるようにする。

〈特活〉・グループ対話 ・聴き方を示す

〈体育〉・声掛けをスモールステップで・教材教具の活用で学び合いの活性化

〈道徳〉・座席隊形の工夫 ・振り返りシートの活用

(2) 授業を見る視点

① 手立てに対する成果や課題について

② 学び合いについて

(3) 授業研究会

① 特活（10月9日） 指導者：西部教育事務所指導主事 新井 優 先生

② 体育（11月12日） 指導者：入間市教育委員会指導主事 岩田 浩一 先生

③ 道徳（12月3日） 指導者：東金子小学校主幹教諭 村野 由佳 先生

3 研究の成果と課題（○成果、△課題）

○ノートや折り合いの術の活用で、自分の考えを持つことができていた。（特活）

○ホワイトボードとマグネットの活用により活発な話し合いができていた。（体育）

○座席の隊形を工夫したことで話し合いが活発になり、挙手が増えた。（道徳）

△話し合いと学び合いの違いが分かりづらかった。（特活）

△チームでの振り返りを充実させることで自分の考えを持たせたかった。（体育）

△アンケート（導入）に戻ることで自分事としてとらえさせたかった。（道徳）

△他グループの取り組みについて共有することが難しかった。（全体を通して）

「学び合いを深め、道徳の学習により自己肯定感を高める」

1 はじめに

本校は、令和2・3年度文部科学省の委嘱を受け、人権教育に力を入れ、様々な取り組みを行ってきた。その結果、人権感覚が浸透してきている。令和4・5年度は、人権教育の取組みを継続しつつ、「協働学習」や「個別学習」を組み合わせた「生徒が主体的に学び合う授業づくり」を行った。その結果、生徒の話し合いスキルと考える力が身につき、主体的に話し合う授業が行われていた。

今年度は、ICT を活用した授業を展開し、学び合い学習を更に深め、道徳の授業に力を入れて取り組んだ。

また、管理職による全体道徳授業も行った。

2 研究の概要

(1) 学習形態

- ① 授業の中で、4人1組の学び合いの時間を確保して取り組んだ。
- ② ホワイトボードやタブレットを活用し、グループでの協働を意識して活動させた。

(2) ICT 研修

- ① ICT(タブレット)の活用方法を、長期休業中・職員会議の中で、ICT主任による研修を行った。
- ② 授業の中で、「オクリンク」「オクリンクプラス」「ムーブノート」「キーノート」「ジャムボード」等を活用する職員が増えた。

(3) 道徳の研究授業・研究協議

- ① 学年内で指導案の検討
- ② 道徳主任による道徳研究授業(3年:二通の手紙)
- ③ 3人グループによる研究協議
- ④ 指導者による助言



3 成果と課題

(1) 成果

授業の中で、4人1組の活動を多く行うことで、周囲の考えを聴いて、授業に取り組む生徒が増えた。また、ICT(タブレット)を活用して、授業を行う職員が増え、ICT(タブレット)を使いこなせている生徒が多い。

(2) 課題

自己肯定感の高まりをどのようにみていくか。また、授業での「学び合い学習」で、聴くことなど、意欲的に取り組んでいる姿がみられるが、基礎・基本の定着に繋がっていない。ICT(タブレット)を使いこなせている生徒が多いが、書く習慣があまり出来ていない。

令和6年度 校内研修の概要

入間市立武蔵中学校

1 はじめに

本校では、昨年度から「生徒の学力向上」を課題と捉え、『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫 ～学び合いを通した、生徒の思考を停めない、より良い支援の在り方～』を研究主題として授業改善に取り組んでいる。また、「学びの共同体」の手法をさらに研修し、教師の指導力向上を目指している。

2 具体的な内容

- (1) 昨年度に引き続き、夏季休業中に武蔵中学校区（狭山小・宮寺小・武蔵中）合同で学びの共同体スーパーバイザー谷井茂久先生を招聘し、「学び合い学習」について研修会を行った。
- (2) 2学期に全職員が「一人1研究1授業」として指導者を招聘し授業研究を行った。
- (3) 1学期・3学期の計2回、指導者を招聘し焦点授業を行い、全教員で参観し、生徒のつぶやきを広い、学び合いにつながる効果的な研修を行った。

3 年間計画

7月12日	「3学年 社会科 焦点授業研究会」 講師 学びの共同体スーパーバイザー 谷井茂久 先生	
7月29日	「武蔵中学校 3校合研究会」 学び合い学習の疑問点を各校で集約したことを中心とした研修 講師 学びの共同体スーパーバイザー 谷井茂久 先生	
2学期	「一人1研究1授業」 講師 市内指導主事等 指導内容を共有し、指導法改善に役立てた。	
2月12日	「2学年 理科 焦点授業」 講師 県教育局 西部教育事務所 主任指導主事 関口学 先生	

4 研修を通して

○2学期 校内研修記録の感想から

- ・ジャンプの課題を通じて、授業が楽しい、と言ってくれる生徒が多くなった。楽しいという気持ちから生徒の学習への興味・関心が高まっているのが感じられた。
- ・家庭学習を習慣的にやっている生徒が増えており、学習への意識の高まりを感じることができた。

5 研修の成果と今後の課題

昨年度に引き続き、「ペアで聴きあう活動」の時間や、「4人組での活動」による学び合いを中心とした授業を展開するようになったことで、県学力状況調査の結果で昨年度よりも学力の向上が見られた。更に質の高い学びの時間をつくれるよう更に研修を重ね、考えることができる・伝えあうことができる生徒の育成、教師の授業力の向上を目指していきたい。

1 はじめに

本校では、昨年度まで「個別最適な学習」と、「協働的な学習」を軸に研究に取り組んできた。特に、生徒自らが「主体的に学ぶ」ためには、授業における教師の働きかけと同時に、生徒が自ら学習に取り組む姿勢が重要である。そこで、学習への取り組みを促進する家庭学習と授業への連動について取り組んだ。

2 具体的な取組

(1) 研修による共通理解・共通行動

- ・教科部会において、「自分で課題を設定して取り組める家庭学習」について共通理解と具体的な実施案の検討を図った。一例としては、定期的に小テストを実施する。その際に、事前に練習課題を配付して学習習慣の定着をすすめた。
- ・領域外学習部会では、学年の状況に応じた取組と学校としての共通行動を確認した。具体的には、授業ノートや学習課題の廊下掲示の実施。また、一律に全校を揃えるのではなく、学年の成長段階に応じて設定をステップアップしていくこととした。
- ・小中連絡会において、本中学校区における小学校での家庭学習の進め方について意見交換を行った。



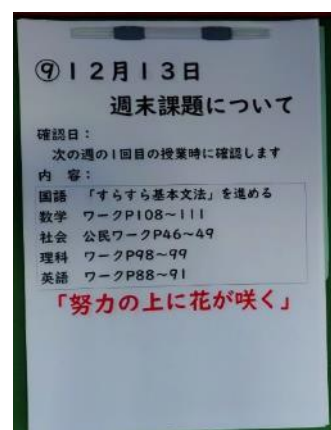
(2) 学年による家庭学習の促進

学年で呼び方は違うが、まず家庭学習に取り組むこと。授業時に確認ができること。3年間を見通した活動ができること。

- ・1年生：「アジャ学」からの家庭学習の習慣化。
- ・2年生：教科授業内における学年一斉の基礎（漢字・単語等）のテスト。
- ・3年生：「週末課題」での提出物の完成から、自分で長期間・計画的に学習する力の育成。

(3) ICTの活用

- ・オクリンクやリーバーを使用して、上述の課題を送信。
- ・先行学習による授業内容の配信。



3 成果と課題

「進んで勉強している」との学校評価項目が、3年生保護者では90%となり、前年度を上回る結果となった。これは、ICTの活用により保護者への周知を進めることができた。また、先行学習の資料を授業時にタブレットで確認しながら取り組む姿勢も見られるようになった。

しかし、個々の取り組みの差は大きい。今後、生徒が互いに声を掛けあえる関係性を育む中から、より互いに学び合う姿勢を高めていきたい。

生徒主体の学校づくりに向けて ～学校統合に向けて、生徒主体の学校づくりを目指して～

入間市立西武中学校

1 はじめに

本校は、令和7年度に野田中学校との統合をひかえている。新校としての授業スタンダードの確立を目指す上で、学び合い学習を基盤とした授業改善を図り、生徒主体の授業スタイルへの転換を進めたいと考えた。また、生徒の心理的安全性を確保するために、生徒指導・教育相談活動の充実を図ることも同時に進めた。

2 学び合い授業研究会

(1) 授業力向上のための支援訪問（11月5日・火）

- ・西部教育事務所より指導者を招聘し、授業研究会及び研究協議を行った。研修を通して、ペア学習、小グループでの学び合いをさらに充実させ、生徒主体の授業に向けて取り組んでいる。



生徒の学校評価（学び合い学習の実施率）は95.1%だった。

(2) 優れた技術指導の共有・普及 アクションリサーチ

- ・県教育委員会より指導者を招聘し、年4回の研究授業及び指導・助言をいただいた。研修の結果、生徒の言語活動の時間を確保すること、学び合い学習を通して、学習内容の定着を図ることなど授業改善を進めることができた。また、参観した教員の授業にも、良い効果をもたらした。



3 職員研修

(1) 教育相談（hyperQ-U）研修（7月22日・月）

- ・本校では生徒理解を深め、生徒の心理的安全性を高めるために「hyperQ-U」を毎年実施し、学級経営・学年経営に活かしている。本年度は指導者（日本教育カウンセラー協会・北條博幸先生）を招聘し、研修を行った。研修の結果を通して、検査結果の見方など具体的に理解することができ、生徒理解をより深めることをできた。



(2) 教育相談（hyperQ-U フィードバック）研修（7月25日・木）

- ・22日に行った研修を受けて、本校での事例を元にさらに研修を進めた。研修で話し合った具体的な対策を2学期の学級経営に反映させたところ、生徒の学校生活に変化を見ることができた。



4 成果と課題

令和7年度4月から始まる新校において、生徒の不安や戸惑いを軽減することが重要と考える。その手立ての一つとして、授業スタンダードの確立を目指すこととした。本年度の研修を通して「生徒中心の授業」「生徒が主体的に学ぶ授業」への改善に手応えを掴むことができた。今後も、学び合い学習を取り入れた授業についてさらに研修を継続していく。また、生徒指導・教育相談の研修を通して、生徒に寄り添う指導を心がける教職員の姿勢が、様々な場面でこれまで以上に見られるようになった。生徒の学校評価（心理的安全性）は91.8%だった。今後も研修の計画的な実施や多種の相談活動等を通して、生徒が主体的に活動し、安心して生活できる学校づくりに向けて研修を重ねていく。

1 はじめに

本校では、どの授業でも学び合い学習を取り入れ、授業を展開している。県学力学習状況調査より、昨年よりも全学年とも学力の向上が見られている。前年度より、「話を聞き発表をする」の項目では、7ポイント向上が見られた。また、「学習準備」の項目では、2ポイントの向上が見られた。学習規律が以前よりも整い始め学力の向上が見られている。

2 今年度の実践

- (1) 年度のはじめ、向原中が取り組んでいる学び合い学習のスタンダードを教務主任が説明し、全体への周知を行った。
- (2) 第1回学び合い学習研修会
令和6年5月7日（火）

授業者 2年4組 坂本 慎 主幹教諭

指導者 学びの共同体研究会 スーパーバイザー 谷井 茂久 先生

- ・焦点授業を行い、向原中が取り組んでいる学び合い学習のスタンダードの確認を行った。
- ・谷井先生から「学び合い学習」の取り組み方についてご指導をいただいた。



焦点授業



研究協議



全体指導

- (3) 学校指導訪問
令和6年7月5日（金）
・「共有の課題」「ジャンプ課題」の設定についてご指導をいただいた。
- (4) 先進校視察
例：令和6年12月9日（月） 川口市立北中学校
視察者：堀内 みなと 教諭
小橋 弘嵩 教諭
- (5) 第2回学び合い学習研修会
令和7年1月24日（金）

授業者 2年3組 堀内 みなと 教諭

指導者 学びの共同体研究会 スーパーバイザー 谷井 茂久 先生

- ・今年度の本校の「学び合い学習」の取り組みについてご指導をいただいた。

3 成果と課題等

(1) 成果

- ・学力に関するアンケートより、学び合い学習に前向きに取り組む生徒が増えている。「疑問点や、わからないところを仲間に聞きながら学習ができた。」「仲間を一人ぼっちにせず、学び合う雰囲気づくりに努力できた。」の項目では昨年よりも全校で10ポイントの向上が見られた。特に、3年生では15ポイントの向上が見られた。
- ・授業時間内に学習部会を設定し、隔週で実施した。学習部会では、県学力学習状況調査の結果を分析し、それぞれの教科で改善策を考えた。また、今年度は学びの共同体の谷井先生から定期的（5月、1月）にご指導をいただいたこと、学校指導訪問のご指導をいただいたことで教師主導の授業からの脱却が見られた。

(2) 課題

- ・学び合い学習における学習規律を整える。
- ・より深い学び合いを行うための「ジャンプ課題」の充実。

(3) 今後の取り組み

- ・年度のはじめ、向原中が取り組んでいる学び合い学習のスタンダードを教務主任が説明し、全体への周知を行う。また、今年度に引き続き学びの共同体の谷井先生から定期的にご指導をいただく。
- ・ジャンプ課題の検討を教科部会で行う。

令和6年度 校内研修の概要

「主体的・対話的で深い学びの研究と実践」「他者との関わり」をととした
非認知能力の育成

入間市立東町中学校

1 はじめに

本校では、令和3年度入間市の委嘱を受けて「主体的・対話的で深い学び」の研究と実践を計画的に進めてきた。今年度も研究を継続し、研究成果を活かしながら、更に深化させることに努め、本校の課題となっている生徒の自己肯定感や非認知能力の育成を図るための取組を進めた。

2 本年度の取組

・校内研修 5月27日(月)

学び合い学習講演会

講師 入間市教育センター 指導主事 江崎 宏昭 様

① 学び合い学習の定義 教員の役割・ファシリテーター

② 課題の設定 共有の課題からジャンプ課題

③ 実践事例の紹介 佐藤 学先生より紹介されたジャンプ課題の実践



・校内研修 7月22日(月)

I C Tの利活用について

講師 入間市教育委員会 指導主事 武内 秀樹 様

① タブレットの活用状況

② タブレットと学び合い活動

③ オクリンクプラスの活用について



・校内研修 10月29日(火)

県学力学習状況調査の分析

① 学習状況調査「国・数・英」の分析 質問紙調査・アンケートの分析

② 各部会(教科、学年・学級)に分かれて方策の検討

資料を分析して課題を見つけ仮説(今後に向けて)を立てて授業実践をする。

③ 非認知能力の育成に関することの分析

方策を練り、各学期の重点として具体的に提示して実践していく。

・一人一回の研究授業の実施 学校指導訪問・7月12日(金)

学校指導訪問を通して、学び合い学習とI C T機器の利活用の実践を課題に授業力の向上を図った。実践後には、成果と課題をまとめ、授業改善に役立てることができた。

3 成果と課題

【成果】

- ・教員のスキルアップとなった。(各教科でI C T機器の利活用の手立てを工夫できた。)
- ・学び合い学習における授業づくりについて、全教員で情報や手法を共有し、理解を深めることができた。
- ・学力低位の生徒も進んで取り組み達成感を得る生徒の姿が見られた。

【課題】

- ・生徒の意欲関心を高める効果的な「ジャンプ課題」の設定。
- ・タブレットの効果的な利活用。ミライシード、オクリンク等を使い慣れしていくこと。

研究主題

「学び合い」による全教職員の指導力・授業力の向上

入間市立野田中学校

1 主題設定の理由

本校では、「学び合いによる全教職員の指導力・授業力の向上」を研究主題とし、「学び合い」についての研修に取り組んでいる。「学び合い」を基礎から確認し、各教科で実践を繰り返し行い、全ての教職員の指導力や授業力の向上を目指すと共に、教職員一人一人が、継続的に授業改善に取り組めるようにすることを目的としている。また、来年度の西武中学校との統合に向けて、本年度の研究の成果を、統合後の新たな教育活動へ確実につなげていく。

2 校内研修（研究）の柱

- 「学び合い」有識者による講演及び研究授業についての指導。
- 全教職員による「学び合い」授業（研究授業）の実施。

3 研修の実践

（1）令和6年4月15日（月）

「第1回 学び合い研修」

- ・ 学校長から本年度の研究方針について
- ・ 小原教諭（本校）による講義「学び合いについて」

（2）令和6年6月3日（月）

「第2回 学び合い研修（兼中中合同研修会）」

- ・ 西武中学校との合同研修会
- ・ 公開研究授業及び研究協議
- ・ 谷井茂久先生（学びの共同体スーパーバイザー）による指導・講義



（3）「一人一研究授業」の実践（2学期～）

2学期から3学期にかけて、全教職員（全教科）による「学び合い」を主題とした研究授業を行っている。どの授業においても必ず「学び合い学習」「学び合い活動」の場面を設定し、入間市教育委員会から各教科担当指導主事を招聘し、授業参観後に指導をいただく。

4 成果と課題

先ず、西武中学校との統合を来年度に控える本校にとって、西武中学校と「学び合い」についての合同研修会が行えたことが大きな成果と考える。また、研究授業では、学び合い活動と共に ICT を活用している授業も多く見ることもできた。今後、「個別最適な学び」と「協働的な学び」、「学び合い活動」をより充実するためには、ICT の活用は必要不可欠であると考え。よって、今後も「学び合い」についての研究を継続して取り組み、研修を充実させながら、本校ならではの「学び合い」教育を教職員全員で深めていく。

令和6年度 入間市のタブレット活用推進について

タブレット授業活用研究委員会

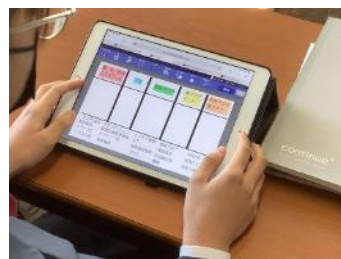
1 はじめに

入間市では国のGIGAスクール構想(※)を受け、令和3年2月に全児童生徒に学習用タブレット端末を整備した。令和の日本型学校教育の実現に向け Society5.0 時代にふさわしい学校の実現に向け、様々な教育改革が進む中、ICTの活用は必要不可欠となった。これまでの実践とICTとを最適に組み合わせ、子供の資質・能力の育成を目指すことが求められている。

※GIGAスクール構想とは、「多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させるために、児童生徒1人1台端末を前提とした高速大容量の通信ネットワークを整備する」ものである。

2 入間市のタブレット活用推進について

入間市では、GIGAスクールで導入されたタブレット端末の活用を「教員の授業改善」に生かし、教員の資質・能力を向上させることにより子供たちの学力向上を目指している。今年度はICTを学びにつなげる活動に重点を置き、「ICT+学び合い学習」として、入間の子供たちを主体的に社会で活躍し、社会に貢献することを通して豊かな生活ができる人に育てるべく、タブレットを活用した学び合い学習へと進化させるべく研究に取り組んだ。



3 今年度の活動内容（概要）

（１）設置目的

- ・ 小学校における授業改善につながる手立てを、タブレット端末の効果的な活用の視点から研究をする。
- ・ 校内でタブレットを活用して授業を推進する教師の育成を図る。

（２）委員会について

- ・ 市内で導入しているミライシードに備わった新機能「オクリンクプラス」における協働学習を推進すべく、その効果的な活用事例を共有する。
- ・ 研究の成果をリーフレットにまとめ、それを市内で共有することで、教職員のタブレット活用を推進していく。

4 活動記録

(1) 第1回研究委員会 令和6年9月11日(水) 藤沢北小学校

- ・今年度の研究内容、活動方針について
- ・タブレット端末を活用した事例の情報交換

【本研究の方向性について】

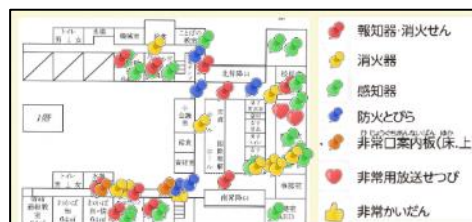
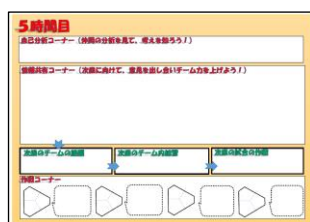
- ① オクリンクプラスを活用した実践紹介を行う。
- ② 3回の研究会の成果物として、リーフレットの作成を目指す。
→電子データで、市内の教職員への配布を目指す。
- ③ オクリンクプラスの「みんなのボード」(新機能)に焦点を絞る。



- ①カード・データの共有
- ②集計機能によるアンケート
→意見・考えの共有、可視化へ

(2) 第2回研究委員会 令和6年11月20日(水) 藤沢北小学校

- ・各校での実践紹介
- ・リーフレット作成に向けた話し合い



【point】

- ①効果的な教材の準備 「教職員で教材を共有ができると良い」
→オクリンクプラスでの教材の共有方法について提示へ
- ②具合的にオクリンクプラスで何ができるかの周知
→集計機能や共同学習の事例について提示へ
- ③「タブレットなら表現できる児童がいる！」
→まずは児童の「振り返り」だけでもタブレット活用を推奨。
フィードバックまでの流れを掲示へ

(3) 第3回研究委員会(予定) 令和7年2月27日(木) 藤沢北小学校

- ・リーフレット校正

※4月に全教職員へ配布(予定)

令和6年度 タブレット授業活用研究委員会

【委員長】

藤沢北小学校 校長 金岡 広道

【委員】

豊岡小学校 教諭 大野 聡 金子小学校 教諭 大野 巳智

扇小学校 教諭 梶原 正貴 高倉小学校 教諭 井上 達也

【担当】

入間市教育委員会 指導主事 武内 秀樹

令和6年度 入間市の外国語教育について



外国語研究委員会

1 はじめに

令和2年度の小学校新学習指導要領の全面実施に伴い、5・6年生の「外国語活動」は「外国語」へと教科化となり、3・4年生においては「外国語活動」が始まった。この全面実施に向けて、本市では平成30年度から令和元年度の2年間を移行期間とし、5・6年生については50時間、3・4年生については15時間の外国語活動を行ってきた。

本研究委員会による平成29年度の意識調査では、小学校の先生方の多くが英語指導に不安を抱いているという結果が出た。その不安となっている要因は、主に自身の英語力に関わること、指導に関わることである。

本研究委員会では、こうした先生方の不安となっている要因を少しでも解消していきたいと考え、研究をしてきた。授業準備や研修準備に係る負担軽減策について研究し、先生方の負担軽減、不安軽減の一助となってきた。

令和6年度は、子ども達に国際交流の機会を提供する企業のサービスである、「国際交流事業」の無料トライアルを利用し、海外の同世代とのオンライン国際交流（リアルタイム）を行っている。指示を受けて学ぶ児童生徒から、好奇心や探求心を持ち、内発的動機付けにより学ぶ児童生徒の育成を目指している。外国語という教科を通して「本物に触れる体験をする」「多様な価値観を持つ人と交流する」「自ら探求する」児童生徒主体の探求・協働学習を研究していく。

2 活動記録

- (1) 第1回研究委員会 令和6年9月27日（金） 入間市教育センター
 - ・今年度の活動方針
 - ・教育長講話
 - ・企業からの説明
- (2) 第2回研究委員会 令和6年11月29日（金） 入間市立東金子中学校
 - ・5時間目 国際交流事前学習 13:40～14:30
 - ・6時間目 国際交流授業（トルコ） 14:40～15:30
 - ・協議 15:40～16:10
- (3) 第3回研究委員会 令和7年2月4日（火） 入間市立西武中学校
 - ・5時間目 国際交流事前学習 13:45～14:35
 - ・6時間目 国際交流授業（トルコ） 14:45～15:35
 - ・協議 15:45～16:15

(4) 第4回研究委員会 令和7年2月18日(火) 入間市立金子中学校

- ・ 5時間目 国際交流事前学習 13:40~14:30
- ・ 6時間目 国際交流授業(未定) 14:40~15:30
- ・ 協議 15:40~16:10

(5) 第5回研究委員会 令和7年2月末日 入間市立東町中学校

- ・ 国際交流授業(未定)
- ・ 協議
- ・ 今年度のまとめ



3 今年度の活動内容(概要)

(1) 国際交流までの活動内容。(11/29 実施 入間市立東金子中学校の場合)

- ① 10月中旬より、企業の音声認識アプリの利用開始
- ② 11月より交際交流に向けて、企業の担当者と打ち合わせ開始
- ③ 11月12日 企業の担当者、担当教諭、トルコの先生と Zoom で打ち合わせ
- ④ 11月13日 国際交流リハーサル
- ⑤ 11月29日 交際交流授業当日

○5時間目

- 13:40~14:15 事前学習
 - ・ (5分)交流の流れと心得を全体で確認
 - ・ (15分)トルコについて知る
 - ・ (15分)企業の音声認識アプリで音読練習
- 14:15~14:30 端末や席のセッティング
- 14:30~14:40 休み時間

○6時間目

- 14:40~14:50 Zoom 入室
- 14:50~15:30 国際交流授業

(2) 国際交流全体を通して

生徒は交流にとっても前向きだった。英語を話そうとする雰囲気があり、生徒にとっては良い機会であった。

ENGLISH

令和6年度 外国語研究委員会

委員長	東町中学校	校長	伊藤 浩二
委員	藤沢小学校	教諭	平井 智康
委員	狭山小学校	教諭	小本 翔
委員	西武中学校	教諭	高橋 昌裕
委員	向原中学校	教諭	川路 唯人
委員	東金子中学校	教諭	益子 進次



令和6年度 確かな学力を育成する入間市の教育について

学力向上推進委員会

1 学力向上推進委員会について

(1) 目的

本市の子どもたちの課題を明確にし、一人一人を確実に伸ばし、確かな学力を育成するための指導方法を研究する。

(2) 今年度目標

「学びのスタンダード7」の作成

(3) 今年度研究内容

「学びのスタンダード」1～6を踏まえ、より児童生徒の主体的な学びを実現するために「家庭学習とタブレットの活用」についての具体的な取り組み事例を示す。

2 活動記録

(1) 第1回委員会 令和6年 9月11日(水) @教育センター

・研究内容の検討 ・研究計画

(2) 第2回委員会 令和6年12月 3日(火) @教育センター

・各校での実践紹介 ・リーフレット作成に向けた話し合い

(3) 第3回委員会 令和7年 2月13日(木) @教育センター

・リーフレットの校正

3 「学びのスタンダード7」の活用について

「学びのスタンダード7」(データ)を各学校に配布することで、令和7年度からの活用を図る。

4 令和5年度学力向上推進委員会 委員

委員長	仏子小学校	校長	田邊 玲 先生
委員	東金子小学校	教諭	新井 裕也 先生
	西武小学校	教諭	森田 富雄 先生
	扇小学校	主幹教諭	加藤 紘之 先生
	豊岡中学校	教諭	宮臣 堯大 先生
	西武中学校	主幹教諭	和合 秀昭 先生
事務局	学校教育課	指導主事	田中 優人

5 入間市の学力等の状況（埼玉県学力・学習状況調査より）

正答率 同学年における昨年度との比較												
昨年度		小4		小5		小6		中1		中2		
		国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	数学	国語	数学	英語
	入間市	61.4	63.9	60.8	62.8	59.4	54.2	63.4	57.3	60.7	60.6	55.2
	県	63.6	63.9	62.7	63.0	60.8	56.5	63.8	56.4	60.2	59.0	59.0
	差(A)	-2.2	0.0	-1.9	-0.2	-1.4	-2.3	-0.4	0.9	0.5	1.6	-3.8
		↓		↓		↓		↓		↓		
今年度		小5		小6		中1		中2		中3		
		国語	算数	国語	算数	国語	数学	国語	数学	国語	数学	英語
	入間市	53.5	51.2	53.8	49.2	57.2	51.7	60.3	50.1	65.7	58.1	52.5
	県	56.9	53.4	56.7	50.9	59.9	53.5	60.3	48.8	66.4	57.5	54.6
	差(B)	-3.4	-2.2	-2.9	-1.7	-2.7	-1.8	0.0	1.3	-0.7	0.6	-2.1
県との差の変化(B-A)		-1.2	-2.2	-1.0	-1.5	-1.3	0.5	0.4	0.4	-1.2	-1.0	1.7
* 改善したのは4項目							○	○	○			○

家庭学習時間（土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか）
 < 2時間以上勉強していると答えた児童・生徒の割合 >

同学年における、昨年度と今年度の比較						
		小4	小5	小6	中1	中2
昨年度	入間市	18.7	20.5	18.5	32.9	31.9
	埼玉県	24.6	24.9	23.7	35.1	37.8
	差(A)	-5.9	-4.4	-5.2	-2.2	-5.9
		↓	↓	↓	↓	↓
		小5	小6	中1	中2	中3
今年度	入間市	20.5	18.2	46.7	36.8	36.1
	埼玉県	24.2	23.6	32.4	34.0	45.2
	差(B)	-3.8	-5.4	14.3	2.8	-9.1
県との差の変化(B-A)		2.1	-1.0	19.5	5.0	-3.2
		○		○	○	

聴く力（先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができますか）

同学年における、昨年度と今年度の比較							
			小4	小5	小6	中1	中2
昨年度	入間市		81.3	76.7	76.5	83.3	78.5
	埼玉県		80.8	77.3	74.4	79.0	77.7
	差(A)		0.5	-0.6	2.1	4.3	0.8
			↓	↓	↓	↓	↓
			小5	小6	中1	中2	中3
今年度	入間市		82.4	78.9	81.2	82.0	86.3
	埼玉県		79.2	76.0	79.4	79.1	82.1
	差(B)		3.2	2.9	1.8	2.9	4.2
県との差の変化(B-A)			2.7	3.5	-0.3	-1.4	3.4
			○	○			○

協働（（前学年で）グループやペアで話し合ったり、意見を出し合ったりする場面がどれくらいありましたか。）

同学年における、昨年度と今年度の比較							
			小4	小5	小6	中1	中2
昨年度	入間市		68.3	72.6	75.6	78.9	84.3
	埼玉県		71.5	71.5	69.9	73.9	73.4
	差(A)		-3.2	1.1	5.7	5.0	10.9
			↓	↓	↓	↓	↓
			小5	小6	中1	中2	中3
今年度	入間市		80.8	85.8	87.6	87.9	88.7
	埼玉県		81.2	84.9	84.7	85.3	78.5
	差(B)		-0.4	0.9	2.9	2.5	10.2
県との差の変化(B-A)			2.8	-0.2	-2.8	-2.5	-0.7
			○				

自己肯定感（自分には、よいところがあると思いますか）

同学年における、昨年度と今年度の比較							
			小4	小5	小6	中1	中2
昨年度	入間市		80.1	79.7	77.1	77.7	71.0
	埼玉県		79.9	79.0	77.0	76.2	71.9
	差(A)		0.2	0.7	0.1	1.5	-0.9
			↓	↓	↓	↓	↓
			小5	小6	中1	中2	中3
今年度	入間市		78.1	77.6	74.5	76.9	70.9
	埼玉県		76.8	78.8	78.2	77.3	75.1
	差(B)		1.3	-1.2	-3.7	-0.4	-4.2
県との差の変化(B-A)			1.1	-1.9	-3.8	-1.9	-3.3
			○				

入間市内児童・生徒の体力の現状と課題

入間市体力向上推進委員会

I はじめに

1 研究のねらい

本市の体力向上推進委員会のねらいは、各校の体力向上推進委員会等と連携しつつ、健康で体力・気力にあふれる児童・生徒の育成を図るため、体力などについての実態調査や諸施策を案出し、各校における体力向上のための実践活動の充実強化を図ることにある。

本委員会は、継続的に集積したデータ等を元に、市内小・中学校の児童・生徒の体力の推移を明らかにし、比較と分析を加えることを主な研究として行っている。

今年度は、研究の中心を、運動好きの児童を育てるための体力向上策とし、会報「元気な入間っ子」の発行による学校・家庭への周知を活動の目標とした。

2 研究の経過

第1回委員会 令和6年11月13日（水） 於 入間市立藤沢小学校

- （1）推進委員会の趣旨並びに昨年度までの活動状況の確認
- （2）本年度の研究方針の決定（年間活動計画と組織作り）
- （3）研究の具体策と推進計画
 - ① 会報「元気な入間っ子」第22号発行計画
- （4）「入間市の学校教育」紀要内容の確認

第2回委員会 令和7年2月13日（木） 於 入間市立藤沢小学校（予定）

- （1）会報「元気な入間っ子」第22号内容の確認
- （2）情報交換
- （3）本年度の反省

Ⅱ 児童生徒の新体力テストの結果・報告

(1) 小学校

①令和6年度 新体力テスト児童の平均値 ○・×は県平均値との比較

男子									
	項目	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)
1年生	市平均	8.78	12.26	27.02	28.24	20.05	11.50	117.23	8.41
	県平均	8.96	12.36	27.16	28.15	21.42	11.59	116.12	8.10
	比較	×	×	×	○	×	○	○	○
2年生	市平均	10.21	15.10	29.24	31.48	29.23	10.82	125.57	11.30
	県平均	10.53	15.35	29.24	32.03	30.66	10.76	126.85	10.96
	比較	×	×	—	×	×	×	×	○
3年生	市平均	11.49	17.02	30.50	35.75	36.84	10.30	136.36	14.62
	県平均	12.23	17.79	31.34	35.54	38.31	10.20	136.97	14.03
	比較	×	×	×	○	×	×	×	○
4年生	市平均	13.97	18.96	31.77	39.62	44.27	9.82	145.71	17.52
	県平均	14.07	19.55	33.23	39.68	45.46	9.77	145.50	16.93
	比較	×	×	×	×	×	×	○	○
5年生	市平均	16.10	21.19	35.85	42.97	52.98	9.31	155.63	21.29
	県平均	16.10	21.08	35.53	43.01	51.70	9.39	154.20	19.99
	比較	—	○	○	×	○	○	○	○
6年生	市平均	18.39	22.14	39.06	45.77	57.09	8.99	164.48	24.26
	県平均	19.01	22.85	38.26	46.34	58.38	8.96	165.48	22.91
	比較	×	×	○	×	×	×	×	○
女子									
	項目	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)
1年生	市平均	8.12	11.29	29.43	26.76	16.62	11.88	108.54	5.87
	県平均	8.48	11.81	29.79	26.71	17.74	11.94	108.34	5.66
	比較	×	×	×	○	×	○	○	○
2年生	市平均	9.59	14.82	32.74	30.06	24.38	11.12	118.53	7.69
	県平均	9.97	14.70	32.28	30.40	24.08	11.12	118.35	7.37
	比較	×	○	○	×	○	—	○	○
3年生	市平均	11.20	16.38	33.92	34.16	29.19	10.51	129.80	9.53
	県平均	11.60	16.97	34.95	33.60	29.43	10.55	129.12	9.28
	比較	×	×	×	○	×	○	○	○
4年生	市平均	13.38	18.88	36.59	37.71	35.29	10.00	138.62	11.06
	県平均	13.57	18.88	37.38	37.76	35.65	10.07	138.59	11.27
	比較	×	—	×	×	×	○	○	×
5年生	市平均	16.14	21.53	40.08	41.76	42.54	9.46	148.64	13.60
	県平均	16.05	20.31	40.62	41.20	41.87	9.64	148.29	13.32
	比較	○	○	×	○	○	○	○	○
6年生	市平均	18.35	21.53	44.90	43.67	45.86	9.25	156.13	15.14
	県平均	18.97	21.54	43.82	43.87	46.20	9.24	156.58	15.00
	比較	×	×	○	×	×	×	×	○

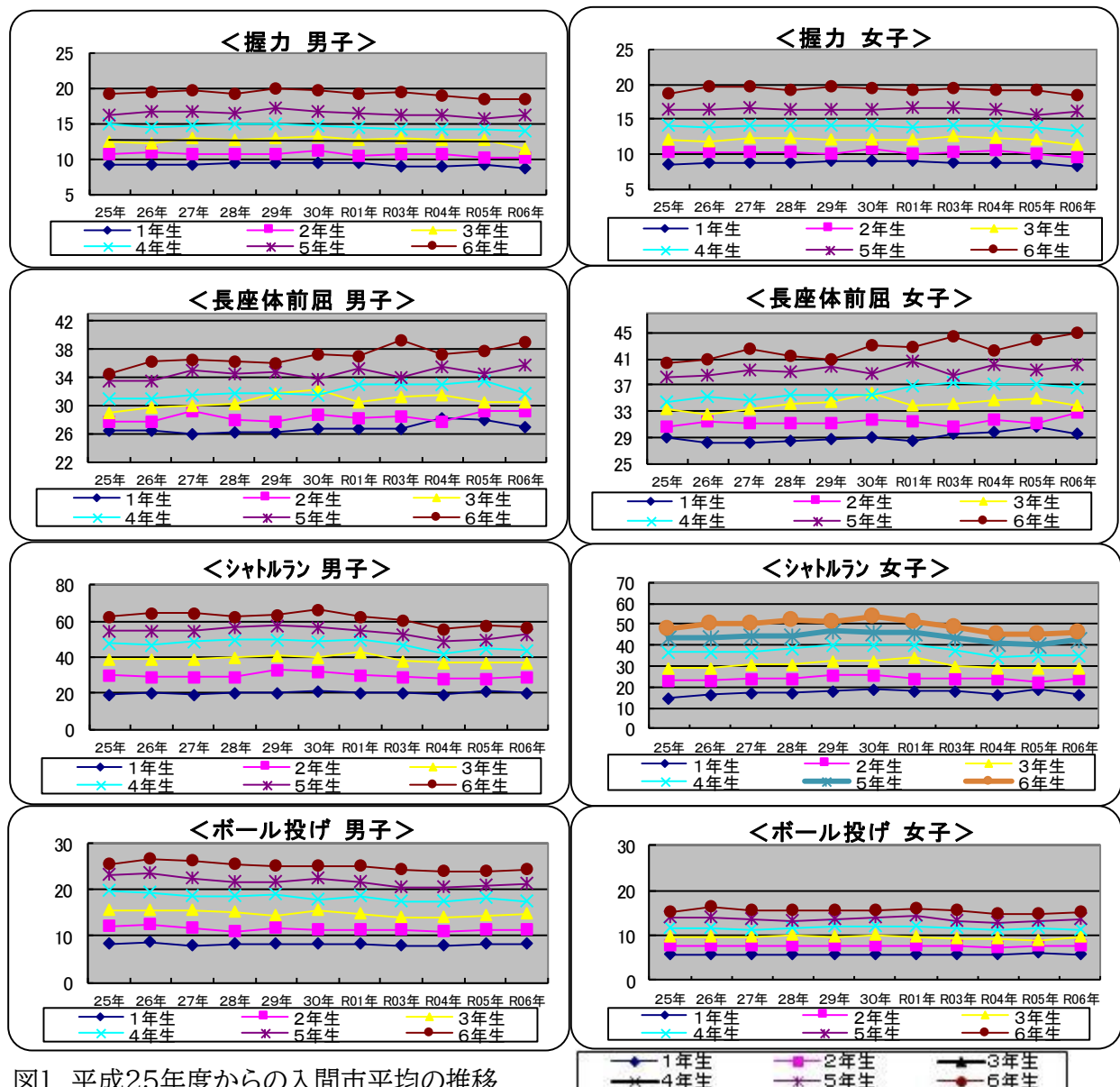
②考察

表1 埼玉県体力標準値以上の記録となった学年の数

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	合計
男子	0	0	3	0	0	0	1	1	5
女子	0	1	2	0	0	1	1	0	5
合計	0	1	5	0	0	1	2	1	10

令和6年度埼玉県体力標準値と今年度入間市児童平均値を比較してみると、体力標準値を上回ったのは96項目中10項目で、達成率は約10%であった。昨年度は達成率が7項目だったため、3項目上回る結果となった。昨年度達成がなかった50m走とボール投げに新たに達成項目がみられたことは児童の体力が上昇傾向にあると捉えたい。しかし、課題である握力、反復横とび、20mシャトルランは、今年度も1学年も上回ることができなかった。依然として、厳しい結果となっている。

平成25年度からの入間市平均の推移を見ると、入間市の重点目標である握力とボール投げについては、全体的に平均値は上がっている。特にボール投げ（男子）は1つの学年を除いて県平均を上回る結果となった。投の運動を積極的に実施したり、児童が楽しみながら投力を高めることができる場の設定などを行い、児童が主体的に投げることに親しむことができているのではないかと考える。長座体前屈、20mシャトルランについては、平均推移で比べると多少ではあるが上昇傾向にある。引き続き、入間市全体で工夫しながら体力の向上を図っていく必要がある。



(2) 中学校 令和6年度 入間市平均と埼玉県平均を比較

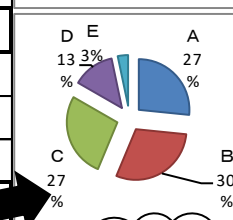
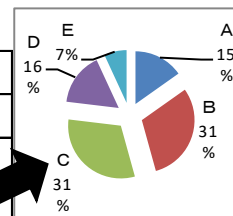
① 令和6年度 新体力テスト生徒の平均値 ○・×は県平均値との比較

男子	項目	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	持久走 (秒)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)
1年生	市平均	23.96	25.17	45.34	47.40	7'01"99	8.48	181.43	18.85
	県平均	23.65	24.93	43.41	48.72	7'06"27	8.56	183.49	17.83
	比較	○	○	○	×	○	○	×	○
2年生	市平均	30.10	28.32	47.91	51.83	6'20"37	7.86	201.65	21.97
	県平均	29.55	28.28	48.27	52.35	6'35"21	7.92	202.40	21.37
	比較	○	○	×	×	○	○	×	○
3年生	市平均	36.19	31.14	52.37	55.75	6'07"04	7.41	215.17	25.18
	県平均	34.69	30.69	52.44	55.27	6'19"11	7.50	216.78	24.21
	比較	○	○	×	○	○	○	×	○

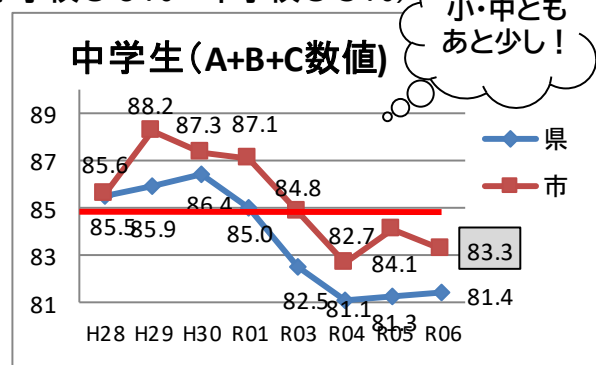
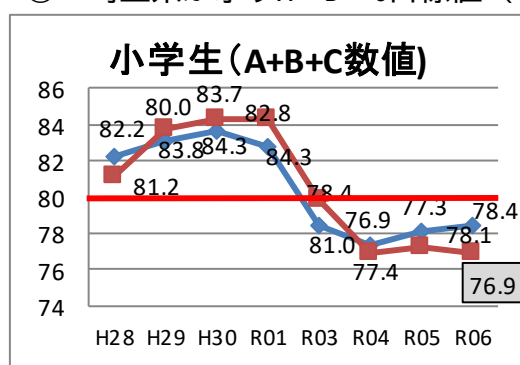
女子	項目	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	持久走 (秒)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)
1年生	市平均	21.98	22.42	48.92	44.29	5'11"85	8.97	167.59	12.37
	県平均	21.52	22.14	47.11	44.88	5'08"64	9.07	166.29	11.60
	比較	○	○	○	×	×	○	○	○
2年生	市平均	25.12	24.58	51.34	47.19	4'48"59	8.66	174.56	14.31
	県平均	24.07	24.60	50.53	46.66	4'55"91	8.79	172.95	13.42
	比較	○	×	○	○	○	○	○	○
3年生	市平均	26.11	26.64	54.20	47.90	4'46"75	8.58	174.71	15.41
	県平均	25.59	26.04	53.05	47.75	4'52"88	8.66	176.23	14.63
	比較	○	○	○	○	○	○	×	○

② 令和6年度 新体力テスト 入間市総合評価

		A	B	C	D	E
小学校	男	13.8%	29.6%	30.8%	17.2%	8.6%
	女	16.7%	31.5%	31.6%	15.1%	5.1%
	全体	15.2%	30.5%	31.2%	16.2%	6.9%
	A+B	45.7%	A+B+C		76.9%	
中学校	男	16.2%	26.2%	33.5%	19.3%	4.8%
	女	37.5%	33.2%	20.2%	7.3%	1.8%
	全体	26.6%	29.7%	27.0%	13.4%	3.3%
	A+B	56.3%	A+B+C		83.3%	



③ 埼玉県が示すA+B+C目標値 (小学校80%・中学校85%)



参考：埼玉県教育委員会HP (令和6年度 埼玉県児童生徒の新体力テスト結果について)

④考察

表3 埼玉県体力標準値との平均値の比較

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	標準値を上回る数	昨年度
1年男子	○	×	○	×	×	○	×	○	4	3
1年女子	×	×	○	×	×	×	×	○	2	1
2年男子	○	×	×	×	×	○	○	○	4	5
2年女子	○	×	○	×	×	×	×	○	3	2
3年男子	○	×	○	×	×	○	×	○	4	2
3年女子	×	×	○	×	×	×	×	○	2	2

○＝県標準値を上回っている

×＝県標準値を下回っている

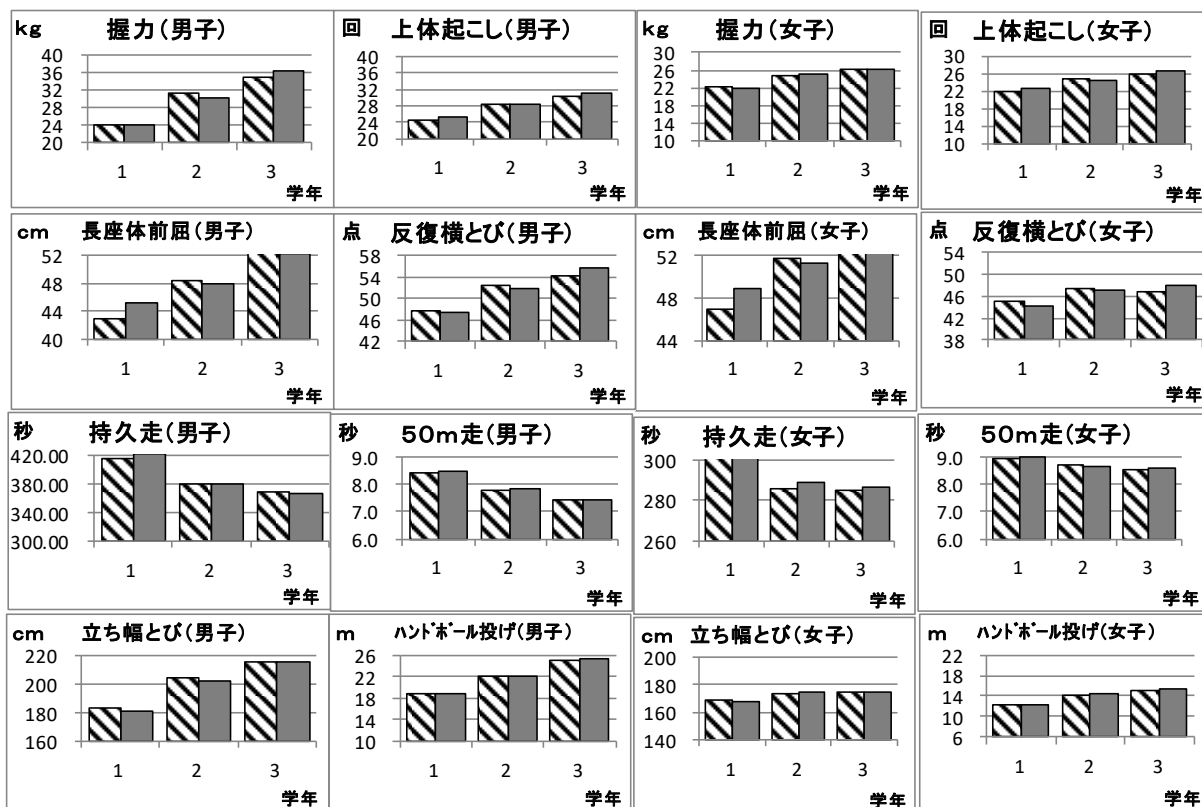
今年度の結果を埼玉県体力標準値と比較してみると48項目中、○19項目(約40%)、×29項目(約60%)であった。昨年度より県の標準値を上回っている種目が3つ増えた。

長座体前屈、ハンドボール投げの2種目において、継続して多くの学年が県の標準値を上回っている傾向にある。運動制限がほぼ無くなった中で、生徒は自己の課題や目標に向かって運動に取り組んでいる成果が徐々に表れているのではないかと。50m走の男子においては、令和3年度から常に良い状態に保つことができています。持久走に関して、どの学年でも県の標準値を超えられていないため、陸上競技の授業で長距離走を充実させるなど取り組んでいきたい。

入間市全体を見ると、上体起こし、反復横とび、立ち幅とびのは県の標準値と比べて低い傾向が見られる。しかし、今年度の県平均値と市平均値を比べると、男子の上体起こしと持久走は全学年、女子は上体起こしと反復横とび、立ち幅とび全てで2学年上回っていることがわかった。学習の中で体力向上の手立てを取り入れられるよう工夫していきたい。体を動かす楽しさや心地よさを味わわせ、1年を通して継続して取り組める運動を取り入れたり、運動のアプローチの仕方を変化させたりしながら、生徒が自らの体力課題を意識しながら主体的に取り組めるよう指導していく必要がある。子供たちが力いっぱい運動に取り組み、自らの健康の増進と体力の向上を図れるような働きかけを体育授業を通して行っていきたい。

図3 種目ごとの学年別平均値の対前年度比

■ R05年度 ■ R06年度



Ⅱ 研究のまとめ

1 新体力テストから

(1) 県体力平均値に対して

令和6年度の結果では、入間市内の小学生の県体力平均値が県平均値を上回っている項目数は、48項目中、男子が17項目、女子24項目であった。

反対に下回っていた項目数は男子29項目、女子22項目であった。男子は握力、女子は50m走が課題である。また、中学生の平均値が県体力平均値を上回っている項目数は、24項目中、男子が17項目、女子は20項目であった。下回った項目は、男子7項目、女子4項目であった。項目では男子は立ち幅とび、反復横とび、女子では持久走が課題である。

小・中ともに、これまでの課題が引き続き解消できていない状況がみられるため、来年度の取組について各校のさらなる工夫が求められる。

(2) 総合評価に対して

総合評価では、「埼玉県5か年計画－日本一暮らしやすい埼玉へ－」（令和4年度～令和8年度）の目標では、A+B+Cの割合を小学校85%、中学校88%以上としている。本市の小学生は、76.9%（県：78.4%）、中学校は83.3%（県：81.4%）となり今年度は指標に達することはできなかった。また、「第4期埼玉県教育振興基本計画－豊かな学びで未来を拓く埼玉教育－」（令和6年度～令和10年度）では、小学校86%、中学校89%を指標としている。今後も児童生徒の健やかな成長のために体育授業の充実を図っていきたい。

2 今後に向けて

体育は運動に親しむとともに、「健康の保持増進」と「体力の向上」を目指す教科である。授業の充実が体力の向上につながっていく。指導にあたっては、授業時数や運動量の確保、指導や評価の工夫改善を行い、子供たちが運動好きになり、力いっぱい運動に取り組む授業を目指してほしい。

各学校の先生方は、ICTの活用や学び合い学習での授業展開を体育でも取り入れる等様々な工夫を凝らして、体力向上策に取り組んでいる。

今後も本研究の結果が、各学校における今後の児童生徒の体力向上策に反映されることを期待している。

令和6年度入間市体力向上推進委員会

委員長	藤 沢 小 学 校	加藤 公章
委 員	西 武 小 学 校	江端 俊
委 員	藤 沢 南 小 学 校	小嶋 一平
委 員	金 子 中 学 校	浅海 実沙希
委 員	黒 須 中 学 校	武田 志帆
担 当	入間市教育委員会学校教育課	岩田 浩一

人権教育の充実を図る指導資料作成の取組

～小学校6年生「道徳」の授業実践を通して～

人間市人権教育推進委員会

I 研究のねらい

本委員会では、「人権教育の視点から、児童生徒が主体的に学び合える授業実践を行い、学校における人権教育の充実を図る」という研究主題のもと、道徳の授業の実践を中心に研究を進めてきた。

今年度の研究は、道徳の授業を通して、小学校の内容項目「C 公正、公平、社会正義」から、教材名『ケーキをおいしく食べるためには ～公平とは何か考えよう』（人権感覚育成プログラム第2集より）を取り上げ、児童にとって「平等」と「公平」を具体的な事例を通して人権感覚の育成を目指したことである。具体的に、「どのような対応や考え方をすることがより相手にとって良いことなのか、話し合いを通してより良い解決方法を考える」ことをねらいとして研究授業を行った。指導案検討では、教材として利用する条件を、委員で研究することで、人権感覚育成のための指導方法や考え方を深めることができた。研究協議では、人権教育の視点から協議を行うことにより、その成果と課題について議論を深めることができた。

II 研究の経過

	日 程	活 動 内 容
第1回	令和6年 9月13日（金）	今後の活動方針の検討、計画の立案
第2回	令和6年11月 1日（金）	授業実施計画・指導案検討
第3回	令和6年12月 4日（水）	授業研究会：東町小 （吉村教諭）

III 第6学年2組 道徳科学習指導案

日時 令和6年12月 4日（水）
授業者 吉村 大佑

- 1 単元（題材）名 「ケーキをおいしく食べるためには ～公平とは何か考えよう～」
人権感覚育成プログラム第2集より
内容項目 【C 公正、公平、社会正義】

2 単元について

(1) 教材観

小学6年生の児童は、知識としては公平・公正の大切さを理解し始めているものの、実際の場面で物事を判断するとき、自分に有利か、不利かという基準で判断する傾向が見受けられる。そこで、他の人々との関係や社会に現存する様々な問題状況について、自分の感覚や知性を働かせながら考え、議論させる活動を通して、公平・公正の大切さを理解し、実現しようとする態度を育成するものである。

(2) 児童・生徒観

本学級では、男女分け隔てなくかかわり交流している様子も見られる。ルールや決まり事を守りながら、学習に取り組む姿が見られる。一方で、友達に言いにくいことや一歩踏み込んだ話になると、かかわりが少なくなり干渉しないような姿も見られる。自分から見て友達が良くないことをしていた場合でも、友達との関係が崩れることを懸念して、正しい声をかけることに躊躇する様子がある。課題に対して自分の意見を伝え、実際に行動にうつせるようになっていくことが現時点での課題である。

(3) 指導観

本時は、授業を通じて人権感覚を磨くことの大切さや人権を尊重することに気づくことがねらいなので、教師自身の考えを押し付けることや、参加者全員の考えが同じになるように説得しないで、ファシリテーターの役目をつとめられるような姿勢で臨みたい。ワークシート、資料を使い、小グループでの話し合いを設定し、意見をまとめる活動を通して道徳的価値への理解を深め、ねらいに迫っていく。

3 人権教育上のねらい（「普遍的な人権課題「公平・公正」）

身近な事例をもとにして公平・公正について考え、公平・公正な社会を実現するために、だれに対しても分け隔てなく接しようとする態度を育てる。

4 人権教育上の視点

- (1) 一方に偏ったものの見方や考え方をせず、一人一人の実情を考えて公平に接することができる。 (技能)
- (2) よりよい社会を実現するために、公平さを尊重しようとする心情や態度を身に付けている。 (価値・態度)

5 本時の学習と指導

(1) 本時の目標

身近な事例をもとにして公平・公正について考え、公平・公正な社会を実現するために、だれに対しても分け隔てなく接しようとする態度を育てる。

(2) 本時の展開

◎人権教育上の配慮

過程	学習活動	予想される児童の反応	・指導上の留意点
----	------	------------	----------

導入	1、「平等ではない」を感じたことがあるか考え、発表する。 2、資料 1(平等と公平)から二つの違いを考える。	・女性専用車両がある。 ・お金の不平等がある。	・本時の授業が、他人事ではないことを意識させる。 ・話題が少ないようだったら、教員の経験から話をする。 ・平等と公平について簡潔に説明をする。
展開	3、資料を読み、3 人でケーキを公平に分ける。(個人)(3分) 4、グループごとに、意見を出し合い、班で理由をまとめ、ケーキを公平に分ける。(10分) 5、発表する。 6、「公平とは何か」について考える。 7、振り返りを書く。	公平ってどんなこと？ ・全員平等に 3 等分して、イチゴの数を工夫しよう。 ・小さい子はケーキが好きだから多く分けよう。 ・全員で意見を合わせるのは難しい。 ◎3 人の実情をよく考慮してケーキの分け方を考えられるように、「この後ケーキを食べながら楽しい時間を過ごすためにはどうしたらよいか」という視点で考えるように声をかける。(技能) ・一部の人だけがいい思いをしないように気を付けた。 ◎抽象的にならず、具体的に公平な態度を尊重することができるよう、日常生活で公平さが求められる場面を想起して考えさせる。(価値・態度) ・みんなが気持ちよく過ごすことができるように話合って、工夫することだと思う。 ・これからはそれぞれの事情を考えて、みんなが気持ちよく過ごすことができるようにしていきたい。 ・公平な選び方をするためには相手を思う気持ちや我慢が大切だと分かった。	・ワークシートを配布する。 ・自分が公平だと考える方法でケーキを分けさせる。 ・ケーキのイラストをタブレットでグループに配布し、話をまとめやすいようにする。 ・オクリンクの共有機能を使い、児童に分かりやすく提示させる。 ・ケーキを分けた理由を重視し、切り返しの発問をしていく。 ・「一人一人が実質的に同じ満足を得るために」という視点で考えさせる。 ・良い意見があるか、机間指導で観察する。 ・発表が終わった時に、発表者に対しての拍手をさせる。 ・児童から公平・公正についての感想が出てきたら、教師はその感想を繰り返し、認めるようにする。

終 末	8.教師の説話をする。		・公平なクラスや学校をつくり上げていくのは、自分たちであることを伝え、今後の学校生活に生かしていく態度につながるようにする。
--------	-------------	--	--

Ⅳ 研究のまとめ

研究協議での内容及び、指導・講評

- ・「公平」「平等」の振り返りや、公平についてもっと考えを深めるとよかった。思いやりをもっと伝えて、児童が多角的な視点が持てるようにできるとよかった。今回は、金額の観点から考える班が多く、他の観点に着目して考えを深めるような教師からの支援が行えるとなおよかった。
- ・教師と児童との良い信頼関係が築けているため、児童の反応も良く、笑顔の多い心理的安全性が担保された教室でした。
- ・「学び合い学習」が活発にあり、児童の様子によって学びを深めるための協働の時間を柔軟に変えてもよいのではないかと。子どもの実情に応じて、短時間で議論し考えをまとめたり、じっくりと多くの時間を取り、考えを深めたりするなど、時間設定に幅があってもよいのではないかと話が出た。
- ・先生がファシリテーターとして、生徒の話を繋いでいて、役割を果たしていた。
- ・本時の設定の中で、3人がどの立場であっても納得ができるものになっているのか、違う立場に立って考えを深めることがあってもよかった。
- ・他者と考えを共有することによって導き出した方法は、どのような状況であれ間違いではなく、大事な考え方であると子どもに伝えていくことが大切である。

令和6年度 人権教育推進委員会

委員長	高倉小学校	校長	武田 功一
委員	宮寺小学校	教諭	新井 成美
委員	東町小学校	教諭	吉村 大佑
委員	藤沢中学校	教諭	佐藤 祐一郎
委員	上藤沢中学校	教諭	坂本 宏貴
担当	入間市教育委員会	指導主事	江崎 宏昭

令和6年度

入間市博物館・学校連携事業研究委員会の活動と博物館授業の概要

はじめに

入間市博物館は、今年、平成6年の開館から30周年を迎えました。その間、学習指導要領は2度の改訂が行われ、学習内容や指導方法が大きく変化してきました。さらに、令和2年度よりGIGAスクール構想が急速に進み、教育現場のICT化は現在進行形で行われています。博物館においても、そのような時代の変化に合わせた博学連携の授業の在り方が求められています。開館以前より活動を始めた「入間市博物館・学校連携推進委員会（現在の入間市博物館・学校連携事業研究委員会：以下博学委員会）」を中心に、博物館を活用しての授業を支援する取組の充実を目指し、常設展示の効果的な利用や体験活動等の実践を進めるとともに、各学校の教育課程に対応する学習内容やICTの活用についても考えてきました。また入間市では、“狭山茶とふれあう教育”を市の教育行政重点施策としており、博物館においても主に中学生を対象に、日本の“和”の心を体験する青丘庵での茶席体験も実施してきました。以下、今年度の博学委員会の活動概要について述べます。

1 令和6年度 入間市博物館・学校連携事業研究委員会

委員	山田 亮太（黒須小学校 校長）	澤田 聖菜（東藤沢小学校 教諭）
	戸口裕太郎（金子小学校 教諭）	今村 基志（武蔵中学校 教諭）
	小田部家秀（入間市博物館副主幹）	
事務局	大久保卓館長	津久井浩一主幹
担当	栗原 淳（学校教育課指導主事）	

【第1回博学委員会】

実施日 令和6年6月28日（金） 午後3時30分から

会場 入間市博物館会議室

（1）開会

（2）自己紹介

（3）委員長・副委員長選出（委員会規則第5条により選出）

委員長 山田 亮太委員（黒須小学校 校長）

副委員長 戸口裕太郎委員（金子小学校 教諭）

（4）協議（委員会規則第6条により委員長が進行）

①令和5年度学校による博物館利用の実績報告

②令和5年度博学連携委員会の活動実績の報告

③令和6年度の研究について

・オンライン授業の改善について

・より効果的な博物館の活用について

※ 閉会后、常設展示見学。教材として活用可能な資料の展示状況を見学。

【第2回博学委員会】

実施日 令和6年11月20日（水） 午後3時30分から （8月30日より延期）

会場 入間市博物館会議室

〈出席者〉各委員

- 概 要 ○報告・協議 の提案について
- ①より効果的な博物館の活用について
- ②学年・単元と展示物や資料の結び付け

【第3回博学委員会】

実施日 令和7年2月下旬～3月上旬 午後3時30分から

会 場 入間市博物館会議室

〈出席者〉各委員

概 要 今年度の活動内容と来年度の方向性について

研究課題 教科書(単元)と博物館学習(展示・資料)との結び付きについて
小学校 教科「社会」

学年	単元名	コーナー(展示物)	展示室
3	【副読本】入間市の土地の様子	川が作った入間の地形	入間の自然(バルコニー・館庭含む)
	市のうつりかわり	昭和前期と昭和40年代のくらし	入間の歴史
	わたしたちのまち・みんなのまち	空から見た入間市	
	【副読本】農家の仕事・茶農家	狭山茶の生産道具	茶の世界
	【副読本】狭山茶	狭山茶の特徴	
4	自然災害からくらしを守る	武蔵野台地・大地の成り立ち・川が作った入間の地形	入間の自然(バルコニー・館庭含む)
	郷土の伝統・文化と先人たち	狭山茶の歴史	茶の世界
	狭山茶を広める	狭山茶の歴史	
	入間市にのこるむかし	入間市の文化財	入間の歴史
5	わたしたちの国土	川が作った入間の地形	入間の自然(バルコニー・館庭含む)
	米づくりのさかんな地域	県内の遺跡分布	入間の歴史
	私たちの生活と食糧生産	土地利用の移り変わり	
6	縄文のむらから古墳のくにへ	原始(縄文・弥生)	入間の歴史
	大和朝廷(大和政権)による統一	登り窯、国分寺瓦	
	天皇中心の国づくり	登り窯、国分寺瓦	

	武士の世の中へ	武士の館、板碑、 戦国時代の入間、検地	
	江戸幕府と政治の安定	日光脇往還、寺子屋、扇町屋	
	町人の文化と新しい学問	日光脇往還、寺子屋、扇町屋	
	世界に歩み出した日本	養蚕と製糸工場、西洋館	
	私たちの生活と政治	粕谷義三、普通選挙	
	長く続いた戦争と人々の暮らし	戦争と暮らし、狭山飛行場	
	新しい日本、平和な日本へ	昭和前期と昭和40年代のく らし	
	大陸の文化を学ぶ、今に伝わる室町 文化	日本茶、狭山茶の歴史	茶の世界
	町人の文化と新しい学問	抹茶と煎茶の茶室	

中学校 教科「社会」

学年	单元名	コーナー(展示物)	展示室
1	世界の農業、暮らし	世界各地の茶	茶の世界
	日本列島の誕生と大陸との交流	県内の遺跡分布	入間の歴史
	中世の日本	武士の館、板碑	
2	地形、関東地方	川が作った入間の地形	入間の自然(バル コニー・館庭含む)
	地形から見た日本の特色	川が作った入間の地形	
	日本の地形、気候、農業	狭山茶の特徴	茶の世界
	台地と低地の農業	県内の遺跡分布	入間の歴史
	織田信長・豊臣秀吉による統一事業	戦国時代の入間、検地	
	産業の発達と幕府政治の動き	武蔵野の落ち葉堆肥方法	
	明治維新～現代の日本と私たち	養蚕と製糸工場、西洋館 黒須銀行、渋沢栄一 粕谷義三、普通選挙	
1・2	文化史(遣唐使・鎌倉仏教・室町・桃 山・化政)	日本茶、狭山茶の歴史	茶の世界
3	第2次大戦と日本	戦争と暮らし、狭山飛行場	入間の歴史

小学校 教科「理科」

学年	单元名	コーナー(展示物)	展示室
4	地面を流れる水のゆくえ	川が作った入間の地形	入間の自然(バルコニー・館庭含む)
	冬の生き物	加治丘陵の森	
5	流れる水のはたらき	川が作った入間の地形	
6	大地のつくりと変化	川が作った入間の地形	
	生物どうしのつながり	加治丘陵の森	

小学校 教科「国語」「総合的な学習の時間」

学年	单元名	コーナー(展示物)	展示室
3	ちいちゃんのかげおくり	戦争とくらし、狭山飛行場	入間の歴史
	お茶博士になろう	狭山茶の特徴 狭山茶をつくる道具	茶の世界

4 終わりに

博物館は、毎年市内外の小・中学校等の多くの児童・生徒が来館し、青丘庵での茶席体験をはじめ様々な体験や見学・観察を通して、学校教育の充実に向けて活用していただいています。博物館では、学校との綿密な事前授業打合せを行い、社会、理科、総合的な学習の時間、学校行事等の教育課程に合わせて、授業活用案を作成して有意義な学習になるように工夫をしています。

今年度の入間市博物館・学校連携事業研究委員会では、より効果的な博物館の活用について研究してきました。教科書と博物館の資料や学習メニューを関連付けることで、地域と学校での学習がつながり、児童生徒の学びがより深まることが期待されます。今後も、各学校の教育課程・各教科・单元、その地域に合わせた博物館授業ができるように、出前授業やオンライン授業を含めた博物館授業を充実させていきたいと考えています。

令和6年度 入間市博物館・学校連携事業研究委員会

委員長	黒須小学校	校長	山田 亮太
副委員長	金子小学校	教諭	戸口裕太郎
〃	藤沢東小学校	教諭	澤田 聖菜
〃	武蔵中学校	教諭	今村 基志
事務局	入間市博物館	館長	大久保 卓
〃	入間市博物館	主幹	津久井浩一
〃	入間市博物館	副主幹	小田部家秀
担当	入間市教育委員会	指導主事	栗原 淳